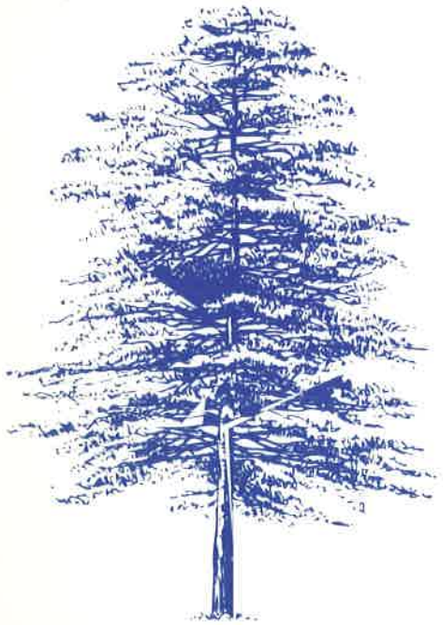
沼津工業高等専門学校同窓会
〒410-8501 沼津市大岡3600 TEL055-921-2700

沼津高専同窓会ホームページ2003年1月開設　www.nct-dsk.com



Copse

2002 Vol.16

ALUMNI BULLETIN,
NUMAZU COLLEGE
OF TECHNOLOGY

沼津高専同窓会ホームページ開設
www.nct-dsk.com

Copse

コプス

語源は英語のCOPSE〈雑木林〉です。
沼津高専創立当時、学校周囲に林立し、
今もなお食堂付近におもかげを残している雑木林と、
校歌の中の「伸び急ぐ小林が樹」
をイメージした愛称です。

沼津工業高等専門学校同窓会誌
第16号

CONTENTS

挨拶

はじめまして、よろしくお願いいたします。……学校長　渡邊　隆……2
会誌発行に寄せて……同窓会会長　M1　木ノ内倫弘……4
同窓会誌発行によせて……同窓会副会長　佐藤喜一……5
21世紀の日本を担う沼津高専……事務部長　水口　亨……5
新任学生課長から見た学生達の状況……学生課長　萩原隆一……7
ごあいさつ……同窓会顧問　山岸文明……9

各学科より近況報告

機械工学科の近況……機械工学科主任　柳田武彦……10
電気電子工学科の就職状況……電気電子工学科主任　若松勝寿……11
電子制御工学科の近況報告……電子制御工学科主任　澤洋一郎……12
制御情報工学科の近況……制御情報工学科主任　大島　茂……14
物質工学科の近況……物質工学科主任　望月明彦……15

総会報告

沼津高専同窓会総会……事務長　M6　坂井徳尚……16
平成11～12年度事業報告/平成13～15年度事業計画……17

会誌によせて

沼津高専での思い出……前校長　山下冨雄……21
会誌発行に寄せて……沼津高専教授　森井宣治……22
退官ご挨拶……制御情報工学科　影山　学……23
沼津高専に36年間……勝又瑛逸……25
AS TIME GOES BY……教養科　勝呂　護……26

会員より

山下前校長と渡邊新校長の歓送迎会について……M2　仁科和晴……27
モンゴルの子供達に学校をプレゼントしてきました……M1　杉山一道……27
日本の旅館興す……E11　冨岡篤美……29
近況報告……C12　高林和弘……30

クラブ活動

サッカー部　全国大会を終えて……サッカー部　5年マネージャー　高井菜巳……31
ハンドボール部の活動……ハンドボール部顧問　望月孔二……32
剣道部近況……剣道部顧問　遠藤良樹……33
水泳部のこの6年　～7人からの再出発～……水泳部顧問　小林美学……35
硬式テニス部2002年の夏……硬式テニス部部長　M4　鈴木良典……36
吹奏楽部の近況……吹奏楽部顧問　M17　鈴木茂樹……37

弔辞

故　朝比奈　博　先生……渡邊　隆・長谷川　浩之・塩川　修治……43
故　渥美　武明　先生……木ノ内倫弘……46

Copse15号以後の時の流れ、人の動き

……47

挨拶

はじめまして、よろしくお願いいたします。

学校長　渡邉　　隆

昨年の七月、山下富雄前学校長(現・ものつくり大学常務理事)のあとを受けて、学校長に就任いたしました渡邉です。前学校長同様、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、旧文部省で、国立大学の人事会計制度、私立大学の設置認可・助成、芸術文化の振興などの職務に従事し、また、大阪大学・東京工業大学・東京芸術大学などの事務局長などとして国立大学の管理運営業務に従事してまいりました。

昭和37年４月に、高校に入学しましたので、高専第一期生の同窓会会員のみなさまとは、同年ということになります。このたび、縁あって、創設40年という、伝統ある沼津高専に勤務することになり、大変光栄に存じております。

さて、この三月には、早咲きの桜の花の舞う中、本科卒業生201名、専攻科修了生24名をお送りいたしました。本科卒業生のうち、93名が就職、72名が大学の3年次編入、25名が本校の専攻科に進学いたしました。専攻科修了生のうち、18名が就職、3名が大学院修士課程に進学いたしました。この平成の大不況の中、就職希望者全員が就職できたということは、誠にありがたいことで、これも一重に、諸先輩のこれまでのご活躍の賜物と、深く感謝申し上げる次第でございます。卒業生、修了生のみなさんの、これからの各方面での更なるご発展、ご活躍をお祈りいたしております。

[3年次編入] 平成14年4月

豊橋技科大……17
東北大……8
東工大・長岡技科大……4
筑波大・信州大・静岡大・名大・阪大……3
千葉大・農工大・電通大・横浜国大・金沢大・神戸大・岡山大・広島大・立命館大……2
北大・東大・水産大・山梨大・名工大・三重大……1

そして、四月には、フレッシュな新入生をお迎えしました。本科生208名(うち女子30名)、専攻科生25名、本科4年次編入18名、本科留学生８名です。そして、本年度の沼津高専の在校生は、本科1062名(うち女子173名(16%)、留学生8名)、専攻科49名(うち女子5名)です。

●本科 生徒数内訳

学科名	学生数	女子生徒(%)
機械工学科	212人	11人(5%)
電気電子工学科	213人	16人(8%)
電子情報工学科	212人	13人(6%)
制御情報工学科	214人	48人(22%)
物質工学科	211人	85人(40%)
小計	1,062人	173人(16%)

●専攻科 生徒数内訳

学科名	学生数	女子生徒(%)
機械・電気システム工学専攻	18人	0人(—)
制御・情報システム工学専攻	21人	3人(14%)
応用物理工学専攻	10人	2人(20%)
小計	49人	5人(10%)
合計 1,111人	うち女子生徒数	178人(16%)

また、新聞などで、ご承知のとおり、国立大学は、平成16年(2004)4月から、独立行政法人となる予定です。これと同時に、国立高専も独立行政法人化することが、ほぼ決定しております。

しかし、これは、あくまで、設置形態の変更、教職員の身分の変更(いずれも、国立大学と同様の変更)であって、高専教育内容そのものには、いささかの変更もありません。

また、沼津高専が、これからも、国立学校であり続けることも、当然のことです。

とは言え、独立行政法人制度が、学校運営への経営感覚の導入、外部有識者の参画、学校運営の目標設定と第三者による達成度評価、それに基づく予算配分などなど、学校運営そのものに、かなりの変化を求めてくるものと思われる以上、これまでとは違った学校運営を迫られることも予想されます。

こうした、厳しい環境ではありますが、今後とも、沼津高専は、教職員一同、力を合わせて、よき伝統を守りながら、国立の高等教育機関の一翼を担っていく所存ですので、同窓会会員のみなさまには、何卒、ご理解をいただき、引き続き、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

会誌発行に寄せて

同窓会会長　木ノ内　倫弘(M1)

会員の皆様こんにちは。

同窓会誌第16号発行に向けてひとことご挨拶申し上げます。

21世紀に入り早や2年が終わろうとしておりますが、依然として日本経済は大変厳しい状況から脱しえません。陽がまた昇るにはまだまだ相当の試練が必要かもしれません。

このような環境の中にあって会員諸兄には日常業務に、地域活動に、家庭にとそれぞれ精励されていることと推察いたします。

同窓生相互の連絡、親睦と母校との連絡を図り、工業技術振興に寄与することを目的とした我が沼津高専同窓会も設立以来35年を経過し、会員数も約6,000名の多きに達しております。

この間同窓会活動は必ずしも順風満帆だったわけではありませんでしたが、関係各位のご努力により着実な歩みを進めてまいりました。

特に最近では従来の活動に加え5年に一度の名簿を全員に無償で配布、在学生の突発的経済危機に対する授業料援助、高専大会全国大会出場への援助、ロボコン援助など幅広い活動を展開しております。

又母校との話し合いも年に数回もち要望事項を出し合い相互の発展に向かっております。
さらに総会のマンネリ化を避けるために多くの会員が居住する都市を選んで開催し、事業計画・予算案をはじめ多くの議事につきまして活発なるご審議をいただいております。

このように同窓会としての活動システムはかなり整備されている現状でございます。

今後ともこの歩みを止めることなく、長期的視点に立って更なる発展につなげたいと思います。

会員各位のよりいっそうのご理解とご協力をお願いいたします。

1、2期生など初期の会員はもう大半の方が役職定年を迎える年頃となりました。経済的・時間的にもかなり余裕のできた方が多いのではないでしょうか。これを期に2年に一度の総会にはぜひ参加くださるようご案内いたします。また同窓会の運営に関わりたいというご希望がありましたらぜひお申し出ください。新鮮さを出すために役員はなるべく多くの方に経験していただきたいと思います。

終わりに会員各位のご健康とますますのご発展を祈念し、ご挨拶といたします。

同窓会誌発行によせて

同窓会副会長　佐藤　喜一

「この1～2年の間に静岡市で同窓会開催の計画があり、会場の設営などを引き受けて貰いたい」

という仁科君からの依頼を受け、今回の役を仰せつかる事になりました。その後常任理事会等の案内を頂いてはいますが参加できず、只今静岡開催に向けてエネルギーを充填中(？)という所です。

早いもので卒業して早や35年、大変ご無沙汰しておりますが皆様は如何お過ごしでしょうか。

私こと、清水の鈴与に入社し清水～名古屋～静岡～浜松～静岡～富士～静岡～仙台と純和風な転勤をし、現在は鈴与商事の静岡支店に勤務しております。商売柄、皆様の所に油を売りに行ってご迷惑をおかけしていますが、忘年会やゴルフコンペの企画など多少なりとも潤滑油の役割を果たしているのかなと思っています。もう子供も独り立ちし(我が家にはまだ高２の息子がいますが)、時間と心(＋金の人も)の余裕が出来たせいか、誰からともなく声がかかって集う時節になったのかなと感じます。最近では静岡市近郊のM2・E2のメンバーで実施しましたが、段々と輪を広げていけたらと思っています。会社もぼちぼち卒業と辞世の句などを考えているアナタ!!まだまだ、残りの4半世紀を楽しく有意義に過ごしましょう。

次回の同窓会は充填したエネルギーを集中させて設営する所存ですので、何卒多数のご出席を賜りますようお願いしまして、ご挨拶に代えさせて頂きます。

21世紀の日本を担う沼津高専

事務部長　　水口　享

本校は、昭和37年4月に国立工業高等専門学校の第一期校として創設され、以来本年で40周年を迎えた。

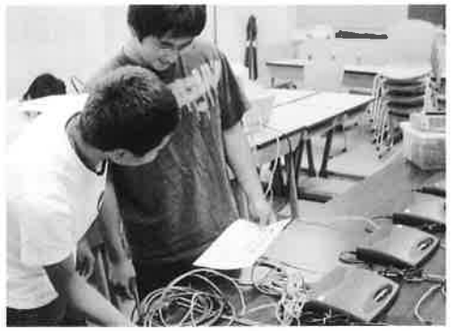
この記念すべき年の4月から、事務部長に就任しました水口です。

これまで、本校発展のために築き上げてこられた先輩諸氏のご労苦に対し、身の引き締まる思いがいたします。

歴史と伝統のある沼津高専の更なる発展のため微力を傾注するつもりでおりますので、どうかよろしくお願いいたします。

創設当時の沼津高専は、機械工学科2学級、電気工学科1学級、入学者132名ということでしたが、今や入学定員5学科200名(機械工学科40名、電気電子工学科40名、電子制御工学科40名、制御情報工学科40名、物質工学

科40名)さらに専攻科3専攻20名(機械・電気システム工学専攻8名、制御・情報システム工学専攻8名、応用物質工学専攻４名)という発展を遂げ、現在1,100余名が在学しております。



卒業、修了生も、平成14年3月現在で本科生5,924名、専攻科生104名と6,000名を越え、国内はもとより国際社会の様々な分野において幅広く活躍し、高く評価されております。

さて、日本の経済社会は今、大きな転換点にあります。産業競争力は90年代と比べて大幅に低下しており、その原因の一つに基礎的科学技術の研究・開発の成果が産業化に結びついていないこと。さらには、グローバル化への対応の遅れ、すなわちITの著しい進歩とアジア諸国の発展は日本経済をとりまく環境をも大きく変えたことにあるとも言われています。

このような社会情勢の中にあって、政府は「国立大学等の独立行政法人化」の方針を決定し、現在その実施に向けての準備が進められております。

この「国立大学等」には「国立高等専門学校」も含まれており、現在、文部科学省及び国立高等専門学校協会等において鋭意検討がなされております。

国立大学の法人化は、我が国の大学制度120有余年の歴史上の上で、一大転換点と位置づけられ、「国立大学の改革と新生」の大きな契機となるべきものです。

現在の国立大学（国立高等専門学校を含む）は、平成16年4月から、各大学ごとに、独立した法人（国立大学法人）となります。ただし、国立高等専門学校の組織及び名称は、現在検討中のため未定です。

これは、大学がそれぞれの特徴を活かしつつ、教育や研究の上で、より一層活力に富み、国際競争力のある、個性豊かな大学になることを目指すものであると言われております。

このように、「法人化」に伴って　●組織・運営　●人事制度　●目標・計画・評価　●予算・運営費等々従来の諸制度が大きく様変わりすることとなります。

しかし、どのような組織、設置形態になろうとも、「沼津高専」は永遠に不滅であり、21世紀の日本を担う沼津高専であり続けるものと確信いたしております。

40周年を契機に教職員一同決意を新たにして、先輩諸氏によって培われた良き伝統を継承し、教育・研究の改善充実を図り、我が国の科学技術の発展の原動力となる技術者の育成と地域社会や産業界の要請に応えるとともに、本校の発展に更なる努力をしてまいる所存であります。

今後とも、本校の発展のため、なお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新任学生課長から見た学生たちの状況

学生課長　萩原　隆一

同窓会の皆様、この4月から学生課長として勤務している萩原と申します。工業高等専門学校勤務も初めての1年生課長ですがどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、皆様にはこの同窓会誌等を通して本校の状況をある程度ご存知のことと思います。

また、本校のホームページを御覧いただくと、5月1日現在の学生数、入試倍率、入寮と通学状況、進路状況など学生関連情報は一通りご確認いただけますので、これらについてのご説明は省かせていただき、ホームページで紹介されていない学生たちの状況をお知らせしたいと思います。皆様もご存知のように1年生にとって4月は入学式に続く様々な入学関連行事を消化しながら授業に出席し、一方では入寮に伴う諸行事も開催されるなど、ホームシックになる間も無いほどの忙しさだったと思います。

さて、新入生が学校生活に少しは慣れた頃に実施される1泊2日の合宿研修は、学級担任をはじめとする先生方と高専の学生生活に対する理解促進を図るためのプログラムですが、新入生全員と関係教官等が一度に会して交流する機会として貴重です。これ以降、学年全員が参加する合宿形式のプログラムは、３年生対象の３泊４日の合宿研修まで待たねばなりません。この他、学生間の交流促進に寄与するものが課外活動としての各種のプログラムであり、主なものは5月の学生会主催のスポーツ大会、寮生が中心に実行する寮際、6月の東京高専との定期戦(スポーツ交流)、7月の東海地区国立高等専門学校体育大会に続く8月の全国高等専門学校体育大会等が開催されました。実際に学生の姿を見ていると、これらの活動が学校間や地域住民等との交流や相互理解の促進に寄与していることを改めて実感しました。

私も学生が多様な課外活動を通じて主体性、指導性、協調性、社会性などを涵養し、それらが彼等自身の成長の糧となることを期待したいと思います。

次に今年の夏休みの閉寮期間中、従来の卒業研究等に従事する寮生に加えクラブの合宿に参加する寮生に対しても在寮が試行的に認められました。実際、在寮中の生活指導面や女子学生の安全面への配慮等から、当直の2人体制など教官や顧問等の負担増となる面もありましたが、期間中、12クラブ、148人の寮生が練習や試合等に参加しました。

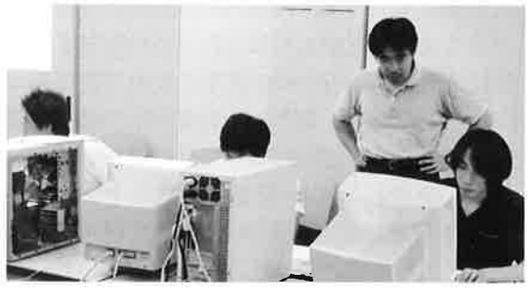
ただし、今回、運営上生じた問題点等について、今後、様々な視点から関係者間で検討を加

え、来春以降の取扱いについては改めて判断する予定です。

一方、学生指導に関わる事柄で残念なのは、4月以降、懲戒処分がたびたび発生していることです。内容的には喫煙等が大部分で、訓告作業や停学3日等の比較的軽い処分で収まる場合がほとんどですが、状況によってはより重い処分が下されています。また女子学生の一部が摂食障害に関連して精神的に不安定な状況に至り、学生生活にも支障を生じる状態にまで発展するなど、状況は学生指導上にも徐々に暗い影を及ぼしてきています。

このことを憂慮して、専門家による健康管理に関する講演会(「過食症・拒食症講演会」(1年生対象)、「健康管理・食生活に関する講演会」(２年生以上対象)、食事に関するアンケート調査等を実施する他、カウンセリング体制の強化等を検討しておりますが、女子学生の摂食障害等の状況は、厚生補導委員会が対処すべき重要な課題になっております。

さて、夏季休業中、新入生をはじめ学生には幸いにも大きな事故等もなく、無事９月を迎えられそうです。前期末試験の後は、体育祭、高専祭など学生が主体的に運営に関わる行事やロボコン等の学外プログラムも開催されます。学生生活の進展に伴い、今後、1年生にも様々な問題が生じることも予想されますが、先ずは夏休み中のクラブ合宿、海外研修旅行、学外実習、その他様々な自己啓発活動や社会体験等を通して一段と逞しく成長した学生たちを教職員一同でキャンパスに迎えたいと思います。



ごあいさつ

同窓会顧問　山岸　文明

同窓会員の皆さん、こんにちは。教養科(英語)の山岸です。若松先生から、私にも同窓会顧問をとのお話があり、これまで、沼津高専にかかわる多くの方々に、大変お世話になったことへの恩返しにと思い、快くお引き受けいたしました。至らぬ者ですが、よろしくお願い申し上げます。

私は、1972年(昭和47年)、創立十周年の4月に沼津高専に赴任しましたが、以来、既に30年が過ぎ、今更ながら、時の流れの早さに驚いております。

教員生活のほとんど全てを、沼津高専で送ってきたわけですが、この30年間に出会った学生諸君は、その数およそ6千人にものぼります。(もちろん、全員を教えたわけではありませんが)。常日頃、沼津高専の卒業生の皆さんが、多方面にわたって大活躍されている姿を見聞きするにつけ、沼津高専は素晴らしい学校であるという感慨と共に、この学校の教壇に立つことができた幸せを感じております。

私は時々、過去の学生写真を見ながら、当時を思い出して懐かしさがこみ上げてくる瞬間があります。この30年間には大きな変化がありました。学生服が私服に変わり、女子学生が急増し、外国人留学生も多くなり、専攻科が新たに設置され、学科改組や学科の名称変更があり、校舎も次々に建てられ、教職員も大幅に入れ替わるなど、文字通り30年前とは隔世の感があります。そしてさらに、独立法人化を数年後に控えて、全国の高専自体が創設以来の一大転換期にさしかかっています。

そうした中で、今も変わらないのは、優秀な中学生が毎年、希望に燃えて入学してくることであります。そして、五年間の研鑽を終え、寮生活を体験して、学び舎を巣立っていることであります。時は移っても、この事実は昔も今も変わりありません。

これまで私は、勉学とスポーツ、学生会や寮の自治活動等を立派に両立させて卒業していった学生諸君を、敬意をもって見つめてまいりました。高専卒業後の人生をいかに充実したものにするかは、各人に課せられた重要な責務ですが、その意味で、高専の五年間が、その後の人生をしっかりと生き抜くための基礎的な力を養う場となるように、授業、クラブ活動等において、これからも学生諸君と接していきたいと考えております。社会の様々な局面においてモラルが厳しく問われている昨今、21世紀の日本を背負って立つ、気概に満ちた人間を育てるために、これからも微力を尽くしていくつもりです。

最後になりましたが、沼津高専同窓会の一層の発展と、同窓生の皆様のさらなるご活躍をお祈りして、ごあいさつといたします。

各学科より近況報告

機械工学科の近況

機械工学科主任　柳田　武彦

沼津高専機械工学科の最近の状況についてお知らせいたします。

この3月には機械工学科35名、専攻科(機械系)6名の学生がそれぞれ卒業・修了いたしました。就職難の時代ですが就職を希望した学生はすべて就職することができました。これは先輩諸氏のご活躍により、高専生が高く評価されているものと、感謝いたしております。

今年は昨年度より就職状況は厳しくなっておりますが、本科生は就職活動を始めるのが遅かった一部の学生を除き、希望者は内定をいただくことができました。決まっていない学生は現在活動を続けておりますが、就職率100%は何とか達成したいと考えております。

一方、専攻科についてはいまだに知名度が低く、希望する会社に就職することがなかなか難しい状況です。専攻科を修了された先輩はまだ少ないですが、今後評価が高まっていくことを願っております。

さて、今年の夏の暑さは異常なほどでしたが、学校では最近、学生が授業を受ける環境の改善が計られ、講義室にも空調機が設置されるようになりました。先に低学年の新講義棟が完成し、５年のホームルームにも空調機が設置されました。取り残されていた４年の教室にも今年ようやく設置されました。環境は整備されてきましたので学生にはより真剣に勉強に取り組んでほしいと期待しています。一方ではあまり無駄に使用しないように、環境問題やエネルギー問題についても配慮してほしいと思います。

機械工学科の教官の動向ですが、昨年度は三谷教官が立命館大学で内地研修をされまして、その間に学位論文をまとめられ、この３月に博士号を授与されました。引き続いて今年は新冨教官が静岡大学に内地研修に出ておられます。これまでにためたデータをもとに次々と論文を書かれているようです。

また昨年新たに採用された永禮哲生教官はサッカー部の顧問、寮務主事補として忙しく学生の指導をされていますが、研究についてもこの夏には海外で発表をされるなど活躍されています。若い先生方が早く学位を取得されるよう期待しています。

宮内教官はこの７月に助教授に昇任されました。今後ますます学生指導などに活躍していただけるものと考えております。

昨年、西田助教授は論文「フレッティング疲労強度における相対すべり量の直接測定およびその解析」に対して、日本機械学会の機械材料・材料加工部門より部門一般表彰(優秀講演論文)を受けられました。また今年は大賀教授が論文「分流鍛造法を活用した歯形部品のネットシェイプ化」に対して日本塑性加工学会から論文賞を受けられました。教育とともに研究でも成果をあげておられ、喜ばしいことです。

高専はこれから独立行政法人化やJABEE(技術者教育プログラム認定)対応など変革の時期を迎えます。高専の将来を真剣に考えていく必要がありますので先輩諸氏のご後援をよろしくお願い申し上げます。

電気電子工学科の就職状況

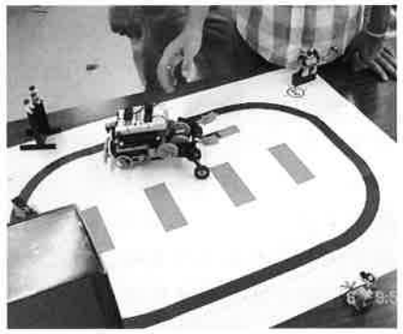
電気電子工学科主任　若松　勝寿

電気電子工学科の平成14年度は、1年生41名以外にマレイシア政府派遣の留学生1名(3年生)と工業高校からの編入生4名(4年生)を迎え入れ、学生数213名(うち、女子学生16名)で始まっています。教職員はコンピュータと情報に強い嶋先生と真鍋先生を平成9年に迎えた以外、その後変化はありません。

最後の電気工学科生である5年生は42名で、就職希望者が21名、進学希望者が20名、その他1名と就職希望者と進学希望者が半々です。今年度の就職状況はIT不況・平成大不況により日立製作所・東芝・三菱電機等の電機総合メーカーをはじめ、多くの会社でリストラが行われ、その影響を強く受けています。求人会社数が昨年度に比べ2割程減っているだけでなく、多くの企業が採用人数を減少させています。1ドルが79.75円という超円高を記録した平成7年も就職難でしたが、夏休み中には全員決まっておりました。

今年は9月になってもまだ決まらない学生が数名います。高専に入れば就職は安心という安易な考えは通用しなくなりつつあります。

多くの会社がエントリーシートを面接の資料として使用し、志望の動機や自己PRの記述を求めています。志望の動機については、志望理由だけでなく、入社後どのような仕事をしたいかや、会社にどのような貢献ができるかなど、積極性を求めています。自己PRでは、学生としてどのような目標を持ち、何にチャレンジしてきたか、またクラブ活動など打ち込んだことでの実績も求めています。以前は人物を見るための面接試験だけの会社が多くありましたが、現在では、電気電子工学の専門や英語の筆記試験と適性試験を行う会社が多数です。専門の筆記試験を行わない会社でも、技術面接



で専門の理解度を試問されます。まさに人間力と技術力のある人材が求められています。

東日本旅客鉄道や日本IBMのように学校推薦による制度を取りやめ、自由応募だけにした会社も増えています。自由応募の場合は試験回数も多く、大学生や大学院生と同じテーブルで審査されますので、内定を得るまでが大変です。しかし、大学卒業生に比べ仕事も良くでき、2年早くから会社に貢献しているので、高専卒業生の給料を大学卒業生より高くするのが当然だという実力・実績重視の会社もあります。一方、学生の方にも変化が出てきており、成績がトップの学生が、2年続けて就職しています。早い時期から自分の希望する会社を決め、十分に準備した学生は希望する会社に早々と内定を決めています。

我々も今まで以上に進路指導に力を入れ、3年生・4年生の学生は将来設計を立て、就職するか進学するか、できるだけ早く決めるように指導しています。今年から就職の決まった5年生が4年生に就職活動の体験談を聞かせる場を夏休み前に設けるなどもしています。「卒業生による就職懇談会」を継続して開催していますので、同窓生の皆さんには体験談や会社の状況をお話しくださるようお願いします。景気はいずれ回復すると思われますが、カリキュラムや実験テーマの見直しを計り、大競争時代に求められる人材を送り出せるように尽力しています。また、機会を見て学校に立ち寄り、近況をお話し頂ければ幸いです。お待ちしています。

電子制御工学科の近況報告

電子制御工学科主任　澤　洋一郎

本年度の学科主任を担当させていただいています。どうぞよろしくお願い致します。電子制御工学科の近況などをご報告させていただきます。

本年3月には本科の5年生42名、本科所属の専攻科2年生5名全員が所定の課程を修了し、卒業致しました。また、学生の進路の内訳は、就職19名(内専攻科生5名)、進学28名で(今年は専攻科生は全員が就職)、いずれも前学科主任の小林先生と前D5担任の森井先生の適切な指導により、希望のところに進むことができました。

新年度になりまして、本科の1年生42名、専攻科新入生8名、4年次編入学生3名を迎えて、現在226名の学生が本学科に在籍しています(専攻科の学生については制御情報システム工学専攻・電子制御システム工学コースに所属していますが、本学科教官が担当しておりますので、加えております)。また、本学科の教育体制も一新し、教官11名・技官2名が本学科の学生指導に一生懸命取り組んでいるところです。

現在まで大きな事故もなく比較的順調に進んでおりますが、この間、来年度卒業予定の5年生および修了予定の専攻科２年生の進路につきましても、昨年度と同じ指導体制で取り組み、大方決まりつつあります。就職希望の学生(本科18名、専攻科3名)は、世の中全般に採用状況が厳しい中ではありますが、皆様のご活躍のおかげで例年通りの求人企業数となっていますので、すでに全員が希望する企業より内内定を頂いています。また大学編入、大学院進学を希望する学生も進学先が確定しつつあります。

本学科所属の専攻科入学予定者も定員を超えており、最近ようやく専攻科入学のメリットが多くの学生や保護者の皆さんに理解されるようになってきたと思います。特に、専攻科に入ると本科5年の卒研を加えて3年間継続して研究できますので、大学工学部を卒業する学生と比べて、専門的な能力を身につけることができる機会がより多く与えられます。

研究成果も学会発表などの形で出てきていますし、電子制御工学科では1期生から5期生まで23名が修了しましたが、6名が大学院に進学し、博士課程に進む学生も出てきています。さらに、本学科ではシスコ・ネットワーキングアカデミーのローカルアカデミーを専攻科生に開講しています。昨年度あたりからCCNA資格を取得する学生が出てきていますので、企業からも一定の評価を頂くようになりつつあります。

また本学科では、平成12年度よりはじまった沼津市のIT講習会に協力・参加させていただいています。沼津高専の存在を広く知っていただく良い機会でありますし、地域との連携をできるところから進めたいという学校の方針に従い、本科4年から専攻科の学生を講師として派遣し、一般の受講生の方々にＩＴ技術を教えるという体験をさせていただいています。教えることの楽しさと難しさを実感することにより、今後の学習に取り組む姿勢が積極的になるなど学生本人にとって非常に良い効果が見られますので、昨年度より学外実習として実施しています。平成１３年度はＩＴ国家戦略に基づき大規模に実施されましたので、本校では電子制御工学科の学生を中心として、機械工学科、制御情報工学科および物質工学科の学生を加え、約50名が参加しました。最終的に受講者が1万人を超えるまでの大成功を収めることができ、本校の学生のとりまとめを行った専攻科田中晶子さんを委員長とする本校の学生実行委員会のメンバーには斎藤市長より感謝状が送られました。今年度も規模は昨年度よりも若干縮小されていますが、５月より実施されています。

WAZAフェスタ2002
(ぬまづキラメッセ8月6日7日)出展の模様

事務局やサポートセンターに本校の卒業生の方々も居られて、学生の面倒を見ていただいており、大変お世話になっています。これからも沼津高専に対する地域社会からの期待にいろいろな形で応えていくのが重要ではないかと考えていますので、地域のイベントなどにも積極的に参加したいと考えています。今後とも同窓会の皆様のご支援をよろしくお願い致します。

制御情報工学科の近況

制御情報工学科主任　　大島　茂

８年もの長い間制御情報工学科の学科主任を務めてくれました柳下教授に代わり、今年度から私が学科主任を務めることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

長年副校長を務めて来られた制御情報工学科教授影山学先生が今年3月末日に定年退官され、5月には沼津高専名誉教授となられました。影山先生には引き続き非常勤講師として本学科４年生の数値解析および専攻科の数値解析法の授業を担当していただいています。

そして今年4月1日より、新任教官として吉野龍太郎教授をS科に迎えました。吉野先生は、(株)本田技術研究所で人間型ロボットの研究に携わっていたロボット工学の専門家です。企業での実践的開発研究の経験をフルに活かしてS科に新風を吹き込んでくれるものと期待しています。

従いまして、現在の制御情報工学科のスタッフは、柳下、大澤、大島、吉野、長谷、藤尾、佐竹、芹澤、鈴木茂樹、鈴木康人、伏見の11名の教官と、柿島技官の合計12名です。

学生数は、1年生４２名(10)、2年生43名(12)、3年生46名(11)、4年生42名(11)、5年生41名(4)、そして専攻科Sコース1年生3名(1)、2年生4名であり、留学生は3年生に1名、4年生に1名(1)、編入学生は4年生に4名、5年生に2名です。括弧内は内数で女子学生の数です。

制御情報工学科は、機械工学科、電気電子工学科と共に平成11年度入学生から入学試験に推薦選抜(平成14年度は定員12名)を取り入れました。最初の推薦選抜で入学してきた学生は現在4年生になっています。推薦選抜の是非を問うには時期尚早かとは思いますが、これまでのところ押し並べて優秀な学生の獲得に功を奏していると考えています。

今年度の5年生の進路は、17名が就職、24名が進学、専攻科2年生は3名が就職希望です。求人に関しましては190数社から募集があり、すでに5年生16名、専攻科2年生3名が採用内定の通知を得ています。昨今の長引く景気低迷による高校生、大学生の就職難の実情と比べて見ますと恵まれた状況にあるように思いますが、これも先輩諸氏がそれぞれの企業で活躍し高い評価を得ているからこそだと感謝しています。

進学に関しましては、試験日や合格発表がこれからというところもありますが、すでに19名が1箇所あるいは2箇所から合格通知を受け取っています。このうち3名は沼津高専専攻科へ進学する予定です。

今年度はS4から学生会長、寮生会副会長、S3から学生会副会長がでています。公共のために自ら進んで労を惜しまない、そういう学生が多くいることにS科学生の頼もしさと将来の楽しみを感じます。4年生の創造設計の授業(写真)では学生達自身のアイデアに基づいた物造りの演習が行なわれています。我々の期待以上のものを創り出す学生達の能力に改めて驚かされています。

最後になりましたが、伏見圭子教官が本年3月20日に東京理科大より博士(理学)の学位を取得されました。S科12名のスタッフ全員が、それぞれに人柄の良い優秀な技術者を育てるべく教育と研究に頑張っております。今後ともOB諸氏のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

物質工学科の近況

物質工学科主任　望月　明彦

物質工学科の近況を簡単に報告します。

物質工学科の教職員は教官12名、技官2名の体制です。現員は1年生42名、2年生41名、3年生40名、4年生45名、5年生43名で、担任は順に西垣教官、村上教官(以上教養科教官)、竹口教官、押川教官、後藤教官です。なお、2年生には教養科との連絡のために仁平教官をお願いしています。専攻科は1年生6名、2年生4名となっております。専攻科担当教官は芳野教官です。

2年前に物質工学科の教室をできるだけ物質工学科棟に移すということで、2年生から5年生までをそれぞれ1階から4階に配置しました。このことによって、低学年から高学年まで学生が一体感を持つこと、低学年の学生が教育プログラムを実感できること、物質工学科としての教育方針を徹底しやすいなどのメリットが考えられます。春休み中に2、3、5年生の教室にエアコンが設置され、4年生の教室にも7月に設置されました。これからも快適な環境をできるだけ準備していきたいと考えております。

次に本科5年生と専攻科2年生の進路です。専攻科2年生の大学院進学希望2名はこれから試験を受けることになります。就職希望2名のうち1名が決まっています。5年生は43名中就職希望が16名で、そのうち女子が10名です。5月末現在女子8名、男子6名が内々定しています。就職戦線は超氷河期といわれる中で物質工学科でも厳しくなっており、特に女子に対する求人は大変少ない状況です。8月末現在での求人数は約70社でここ3年ほど会社の数は横ばいですが、今年の特徴として、1社あたりの求人数の減少が目立ちます。

企業が行う採用試験は適性検査と面接検査が主流になっています。筆記検査を行うところでも専門の試験を行う会社は少なくなっており、最も重視されるのは面接です。物質工学科では4年生のうちから、3回の就職説明会を行うなどの対応をとっています。

今年は27名の進学希望があり、5年の担任が指導にあたっています。23名が大学、4名が本校専攻科に合格しています。

これからの高専は変革のときを迎えます。16年度からは独立行政法人として新たなスタートをきることになりますし、日本技術者教育認定機構(JABEE)への対応という問題もあります。

スタッフ一同できる限りの対応をしていきたいと考えております。今後とも同窓会の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

総会報告

沼津高専同窓会総会

事務長　坂井徳尚(M6)

平成13年11月11日、スパウザ小田原にて沼津高専同窓会総会が開催されました。当日は天候にも恵まれ、会場のスパウザ小田原からは相模湾が一望でき、さわやかですがすがしい一日でした。根府川の駅前で手にいれた温州ミカンの甘酸っぱさも、西湘地区ならではのものでした。

総会は、増田副会長(沼津高専同窓会西湘支部・支部長)をはじめとする、西湘支部メンバーの総力を挙げた万全なる準備により、且つ又、大日向議長(E1)のスムーズな議事進行により、運営報告・決算・予算も承認され、同窓会三役は木ノ内会長・加藤副会長・坂井事務長の留任、増田副会長の退任と佐藤副会長の就任が賛成多数により承認されました。

引き続き、パーティー会場に場所を移し、懇親会が開催されました。懇親会は内藤(E10)興梠(M13)両氏の司会によりなごやかに進められました。来賓の影山先生・勝呂先生・山本前図書係長、そして宮田事務部長・佐藤庶務係長・真野学生課長、それから同窓会顧問の若松先生からも楽しいお話をいただくことができました。参加者全員が舞台の上に立ち終わった頃が、楽しかった宴もエンディングに近くなり、校歌斉唱・万歳三唱、そして全員の写真撮影により、2年に1度の沼津高専同窓会総会は終了致しました。

同窓会総会も、会場を寮食堂から尚友会館そして沼津軒・ブケ東海等々と移し、又講演会等の楽しいお話を用意いたしました。それから、静岡の日興会館・東京の東海大会館・浜松のアクトシティーそして今回のスパウザ小田原と、出来得る限り会員の皆様の近くにデリバリーしてきました。デリバリーの効果は初めて総会に参加できた会員が多かったことでした。次回は再度静岡で開催する予定です。佐藤喜一(M2)副会長を中心にして、会員の皆様が参加し易い企画を考えて、総会を2003年11月頃開催の予定です。静岡地区近郊に在住の会員の皆様には、是非ともお誘い合わせて、総会に参加して下さいますようお願い申し上げます。

●平成11～12年度事業報告/平成13～15年度事業計画

※同窓会の活動は、継続的なものが主体であり、次の項目となります。(平成13年11月11日) 沼津高専同窓会

項目＼年度	H11/1999	H12/2000	H13/2001	H14/2002	H15/2003
新入理事会	●	●9/8	○8/24	○	○
総会	●11/28 於アクトタワー		○11/11 於スパウザ		○
同窓会だより発行	●		○		○
同窓会誌発行		●15号		○16号	
同窓会名簿発行	●1999				

※奨学金制度は1988年4月発足以来2001年11月までに、半期分授業料を30回支給。

平成11年度　運営会計収支決算書

拠出収入（自平成11年4月1日・至平成12年3月31日）　沼津高専同窓会

科目	決算額	予算額	比較増減
終身会費	3,920,000	3,920,000	0
受取利息	806,487	800,000	6,487
収入合計	4,726,487	4,720,000	6,487

運営支出（自平成11年4月1日・至平成12年3月31日）

科目	決算額	予算額	比較増減
会議費	262,783	300,000	37,217
通信費	621,872	1,000,000	378,128
事務用品費	20,153	50,000	29,847
慶弔費	109,635	150,000	40,365
同窓会だより	120,000	200,000	80,000
学制援助費	290,000	300,000	10,000
印刷費	203,700	200,000	△3,700
支部交付金	60,000	60,000	0
旅費交通費	107,160	200,000	92,840
名簿管理費	100,000	200,000	100,000
総会懇親会特別会費	297,620	300,000	2,380
奨学金	210,000	210,000	0
雑費	15,645	50,000	34,355
予備金		1,500,000	1,500,000
本年度剰余金	2,307,919		△2,307,919
支出合計	4,726,487	4,720,000	△6,487

平成11年度貸借対照表

平成12年3月31日現在　沼津高専同窓会

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	17,570	前受金	3,980,000
郵便貯金	14,625,000	未払金	748,725
銀行普通預金	5,387,908		
銀行定期預金	14,443,276	奨学金引当金	162,600
未収金	1,762,500	未収金引当金	1,762,500
什器備品	31,500	減価償却引当金	28,350
		剰余金	29,585,579
		(本年度剰余金)	(2,307,919)
合計	36,267,754	合計	36,267,754

平成12年度　運営会計収支決算書

拠出収入（自平成12年4月1日・至平成13年3月31日）　沼津高専同窓会

科目	決算額	予算額	比較増減
終身会費	4,000,000	4,000,000	0
受取利息	628,008	600,000	28,008
収入合計	4,628,008	4,600,000	28,008

運営支出（自平成12年4月1日・至平成13年3月31日）

科目	決算額	予算額	比較増減
会議費	255,806	300,000	44,194
通信費	1,038,246	1,200,000	161,754
事務用品費	336,210	50,000	△286,210
慶弔費	105,996	150,000	44,004
同窓会誌	724,500	800,000	75,500
学制援助費	230,000	300,000	70,000
印刷費	74,385	200,000	125,615
支部交付金	60,000	60,000	0
旅費交通費	57,000	200,000	143,000
名簿管理費	228,885	200,000	△28,885
奨学金	210,000	210,000	0
雑費	7,980	50,000	42,020
予備金		880,000	880,000
本年度剰余金	1,299,000		△1,299,000
支出合計	4,628,008	4,600,000	△28,008

平成12年度貸借対照表

平成13年3月31日現在　沼津高専同窓会

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	82,438	前受金	4,020,000
郵便貯金	10,000,000		
銀行普通預金	3,524,449		
銀行定期預金	21,457,142	奨学金引当金	162,600
未収金	1,762,500	未収金引当金	1,762,500
什器備品	31,500	減価償却引当金	28,350
		剰余金	30,884,579
		(本年度剰余金)	(1,299,000)
合計	36,858,029	合計	36,858,029

監査報告

厳正なる監査の結果、会計帳簿は正確かつ明確に記帳されており、収入・支出とも適正で平成11年度、平成12年度収支決算書及び貸借対照表の記載に相違ないことを認めます。

平成13年11月11日
幹事　仁科　和晴(M　2)
諏訪部　豊(E　9)

平成13年度　運営会計収支予算案

拠出収入（自平成13年4月1日・至平成14年3月31日）

科目	予算額
終身会費	4,020,000
受取利息	30,000
収入合計	4,050,000

運営支出（自平成13年4月1日・至平成14年3月31日）

科目	予算額
会議費	300,000
通信費	1,000,000
事務用品費	200,000
慶弔費	150,000
同窓会だより	200,000
学制援助費	300,000
印刷費	200,000
支部交付金	60,000
旅費交通費	200,000
名簿管理費	200,000
総会懇親会特別会計	300,000
奨学金	210,000
雑費	50,000
予備金	680,000
支出合計	4,050,000

平成14年度　運営会計収支予算案

拠出収入（自平成14年4月1日・至平成15年3月31日）

科目	決算額
終身会費	4,000,000
受取利息	30,000
収入合計	4,030,000

運営支出（自平成14年4月1日・至平成15年3月31日）

科目	決算額
会議費	300,000
通信費	1,200,000
事務用品費	200,000
慶弔費	150,000
同窓会誌	800,000
学制援助費	300,000
印刷費	200,000
支部交付金	60,000
旅費交通費	200,000
名簿管理費	200,000
奨学金	210,000
雑費	50,000
予備金	160,000
支出合計	4,030,000

会誌によせて

沼津高専での思い出

前校長　山下　富雄
ものつくり大学常務理事兼学務部長

40周年を迎え、約6,000人の卒業生を世に送り出した沼津工業高等専門学校の発展を、今も日々願っています。

霊峰富士の麓、山紫水明、気候温暖の地で、学識高く、高専教育に理解が深く、教育熱心な教官と、そして優秀な学生諸君とともに過ごせた沼津での5年3ヶ月が今も懐かしく思い出されます。

平成8年4月、豊橋技術科学大学副学長から校長に就任し、直ちに本科生の入学式、そして1週間後には新設された専攻科の入学式とあわただしいことでした。

国立大学から国立高専に代わって、最初に気づいたことは、教官たちの教育熱心さでした。授業が厳しく行われている。低学年全寮制を基に学生指導が厳しく行われていることに敬意を表するとともに、ある意味では、驚きを感じました。

大学では煙草を吸うことは日常茶飯事、何かあればお酒を飲むのも日常茶飯事、これが処罰の対象になるとは夢にも思わず、頭の切り替えを要しました。

校長の職務は、教育条件の整備と考え、努力をしたつもりですが、私の在職期間中は、バブル経済破綻後の長い不況とその影響で国の財政は厳しく、最初、沼津高専の情報教育設備の充実をしようとしても国の援助は望めず、各学科での研究費の節約、共通経費からの捻出をしても足らず、ついに沼津高専始まって以来の寄付集めをしました。幸い、東部地域産業技術振興協会の関係で知り合った企業の方々にお願いしたところ、寄付金の集め方から指導を受け、当初計画の額を確保することができました。後から聞きましたら、校長の顔をつぶしてはいけない、と言うことで各社ともに厳しい状況の中から寄付をしていただけたとのことでした。大変ではありましたが、良い経験をさせていただきました。(この東部地域産業技術振興協会の皆様方が、10月下旬に、ものつくり大学へ視察にお出になります。時間があれば当時のことも話して見たいと思っています。)

それでも、在任中に、専攻科棟の新設、SCSの設置、寮の改修、新講義棟の新設等の整備ができたことは幸せでした。

昨年7月、急なことで、後ろ髪を引かれる思いで「ものつくり大学」へ転任しました。いわゆるヘッドハンティングにあってしまいました。

ものつくり大学は、ご承知のように、国の要請でできた大学ですが、いろいろな事情から設置母体は学校法人で、私立大学となっています。

設立経費は、国、地方公共団体、そして企業からの寄付金で賄われていますが、運営経費は

独自にかせがなければなりません。

日常の運営経費は学生の納付金に頼っているわけで、失礼ながら学生諸君の顔がお金に見えるときもあります？。この少子化の時代に学生を集めるのは大変な仕事です。学生募集は私の仕事ですので、いろいろなアイデアを出しては努力していますが、高専時代では味わえなかった苦労をしています。

そのうちに沼津高専へ3年次編入のお願いに伺おうと思っています。

最後に、同窓会の皆様方に、沼津高専の御後援をお願い申し上げます。

大変お世話になり、誠にありがとうございました。

会誌発行に寄せて

沼津高専教授　森井　宣治

高専は今年で40周年を迎えます。この間、日本の工業技術は大きく成長し、「追いつけ、追い越せ」の時代から、追い越して「先頭を行く」時代へと大きく変わってきました。

この40年間に、工業高校卒業生は21万人から11万人へと半減し、大学工学部卒業生は4万人から11万人へと3倍近くに増え、日本の工業の主要な担い手は、高卒技術者から、学卒技術者へと交代しました。

そして、高専は、学卒技術者の約1割の規模で、沖縄を除く、ほぼ全国をおおう地域で、技術者教育の担い手として、日本の工業技術の興隆に少なくない貢献をして来ました。日本の工業技術の進展は高専卒技術者の活躍なしにはありえなかった、といっても決して過言ではないでしょう。

高専における技術者教育は、幾分、大学工学部と工業高校、それぞれにおける技術者教育への補完的役割を果たしつつも、それ自身が完結したシステムとして成功し、成長してきたといえます。

それなのに、今、なぜ高専に専攻科が必要とされるのでしょうか。専攻科設置が話題に上った頃、私自身が抱いた疑問です。

元来、技術者に必要とされる資質は、単純に言えば、(1)高度な専門性、と(2)幅広い視野、の二つです。時代の要請に応じて、どのように両者をバランスさせるか。これが技術者教育の基本として要求されるポリシーです。

「追いつけ、追い越せ」の時代には、先進技術の導入等により、「高度な専門性」を身につけることは、比較的容易にできます。従って高い効率での専門教育が可能になります。導入された技術は「相対的に遅れた」地域で使用され、先鋭化され、先進地域に「逆発信」されるでしょう。このような技術は、導入された地域限定性の強いものとなります。従って、導入技術に関する限り、技術者は限られたコミュニュケーション能力でも対応できると言うことになります。「専門性」と「視野」のバランスは、当然、前者に傾きます。

しかし、追い越して「先頭を行く」時代には手本となる先進技術はありません。自らが考案し、試作し、他の(できるだけ広範な)地域に向けて発信し、そこで試され、改良された結果を再び受け入れて、より新しい技術へと結実させなければなりません。そのような作業がどんなに効率の悪いものであるか、容易に想像できると思います。頼りになるのは技術者一人ひとりの視野の広さであり、効率的なコミュニュケーション能力であるということになります。「専門性」と「視野」のバランスは、勿論、後者に傾きます。

日本の科学技術が「追いつけ、追い越せ」の時代から、追い越して「先頭を行く」時代を迎えたこと、これが技術者に「広い視野」の涵養を要求するようになったのだと思います。

従って、専攻科の役割は、高専において培われた専門性を維持・深化させつつ、より幅の広い視野を身に付けた技術者を育てることにあります。

これが、今、高専に専攻科が必要とされている理由だと思います。

高専の教育に不足があるから専攻科が必要になったのではなくて、高専の教育が成功し、科学技術の「先頭を行く」時代を切り開いたからこそ、専攻科が必要になった、というのが私の理解です。

こうした専攻科拡充への努力を重ねてこられた初代専攻科主任故宇井教授、２代舟田教授の後を受けて、私は第3代の専攻科責任者に就任しました。

発足以来5年間が経過し、昨年度は5年毎における大学評価・学位授与機構の審査に合格しました。40年の歴史の中で、沼津高専が初めて「公式」の外部審査を受けての「合格」でした。

こうした前任の先生方による成果を引き継ぎつつ、新たな課題に当面するのが私の役割と心得ております。

私は前任者同様、日本の工業、なかんずく日本の技術者教育に求められている課題へ、果敢に挑戦して行く所存です。

卒業生の皆様の専攻科への、ご理解と、ご協力をお願いして挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いします。

退官ご挨拶

制御情報工学科　影山　学

卒業生の皆様には、それぞれの場におかれて鋭意ご活躍のこと衷心よりお慶び申し上げます。

私こと、去る3月末日をもちまして定年退官いたしました。この際の恒例ということで投稿の機会を与えられましたのでご挨拶旁お礼申し上げます。

母校沼津高専は平成13年度に40周年を迎えたところです。創設初・中期の卒業生には、日本の高度経済成長を直接担ってきたわけでご苦労も多い反面達成感も大きかったものと思います。特に、職場での第一線を既に了えられた武勲高き初期生にはその感も一入のことと拝察しています。この40年は、歴史的にも意義深い時代だったと思います。国策としての高専設立目的が、“わが国の産業経済の高度な成

長を維持発展させるために、優れた知識技術を直接生産活動に生かす優秀な第一線中堅技術者を育成する”という時代の要請に沿ったものでした。多くの卒業生が当にこの要請に応えてこられたことを実感し感服致している昨今です。設立十余年を経て、時代は、創造力の必要性が謳われるようになり、高専における目的人物像も“第一線実践的技術者”へと変わっています。科学技術と産業経済の飛躍的発展を経て、グローバルに産業構造が変わっていく時代、技術の目的もその変革を余儀なくされているわけですが、”日本の工業が待つ”期待に応えていかれること、　また、企業の倫理が広く問われる時世になっています。卒業生諸君には初代校長の校訓どおり”人柄の良い優秀な技術者となって世の期待に応えて”いかれるよう期待しています。

同窓会からは常日頃、奨学金を初めコンテスト補助など学校への甚大なご支援を頂いているところですが、この度私事退官に際しましては加えて過分なご祝儀まで頂戴し誠に有難う御座いました。併せてお礼申し上げます。

私が機械工学科へ着任しましたのは昭和41年4月でした。当時は2学級構成でしたが、平成4年度にその1学級が制御情報工学科に改組され、同時にそちらへの異動を命ぜられ退官まで同科に在籍致しました。新学科での立ち上げ時期にはカリキュラムの改定作業、それに伴う担当科目のシラバス構築などで忙殺された時期がありましたが、学生たちともテーマを共有出来た感が強く、今となっては忘れ難い良い思い出となっています。外国からの留学生の受入れは平成6年度に開始されましたが、主事としての立場上最初は不安に駆られたものです。結果的には卒業生の実績が示すとおり、上首尾に進んだものと安堵しています。各自の努力も然ることながら、直接指導に当たられた多くの先生方の尽力を忘れないで欲しいと思います。

授業のこと、クラス・進路指導のこと、卒業研究のことなど今になって振り返ると、あゝすればよかった、こうもしたかったということが沢山ありますが後の祭りですネ。自分に足らなかった分はきっと学生自身が補ってくれたものだと勝手に固く信じている次第です。
素質の高い学生諸君と優れた環境・境遇に恵まれ、私には楽しく充実した30余年でした。

末筆ながら、同窓会の益々のご発展と各位のご活躍を祈念してご挨拶と致します。

沼津高専に36年間

勝又瑛逸

沼津高専「同窓会」の皆様こんにちは。

私は、この3月末日をもちまして退官いたしました。41年の教育生活の中で沼津高専には36年の長い間、多くの方々のご指導とご厚情により無事勤めることができました。　顧みますと、昭和41年、ちょうど1期生が5年生になった年に沼津高専に着任しました。これまで教えていた高校生と較べると沼津高専の学生の目の輝きが違うことが第一印象でした。当時の入試倍率は十数倍でその関門を突破したもの達の集団ですから当然のことですが。

当時私も26才と若く、授業に、部活に学生と一緒に駆け回っていました。全国高専体育大会で陸上競技が総合優勝したのも、着任してから2年後のことでした。その後も四百メートルリレーが3連勝しその時の記録が長い間大会記録として残っていました。大変楽しい想い出の一つです。

その頃の学校周辺は、東洋パンの工場以外は民家など殆どなく、現在の図書館の北側は、雑木林が続いていましたが、その地形を利用して練習もしました。

道路も当然未舗装で、雨の日の学生や、教職員の通学、通勤はゴム長か、そうでなければ水たまりを避け、それでもあしもとは泥んこになって学校に辿り着くような状態でした。

また、ある時は学生運動の余波を受けて深夜に至まで教官会議を重ねたこと、第一次オイルショックで学生の就職がどうなるか真剣に心配したことなどは、ほろ苦い想い出であります。

当初は、機械工学科と電気工学科の二科でしたが、新学科の設置や、改組などで創設当時では想像もできない程の変貌を遂げ、発展を続けています。特に専攻科の設置は、最近の出来事としては、大きなニュースでした。

就職は順調で、進学も全国の国公立大への編入が可能となり毎年多数の学生が編入しています。

この様に高専が社会に高く認知され、特に沼津高専は、高専の中でも全国一の高い評価を得ていることは、これまでの多くの卒業生(同窓会会員)の必死の努力の結果であることは言うまでもありません。

しかし、これからの社会は、激しく変動を繰り返すでしょう。この影響は必ず高専にも及びます。こんな中で沼津高専が今までのように高い評価を受け続けるためには、在校生はもとより、同窓会会員各位の今まで以上の社会での努力をお願い致します。

現在私は、教官の定員削減の関係で、私の後任を採用するのは2年後だそうで、少なくともその後任が来るまで非常勤として週3日は今までのような体育実技を非常勤としてお手伝いしております。その他は、静岡県の陸上競技協会の役員をしていますので、色々な大会の審判と、来年(平成15年)に迫った二巡目の国体を成功させるべく頑張っています。

最後になりましたが、君たちと同じ釜のめしを食べ、机を並べて勉強をした仲間で、不幸にして事故や、病気で亡くなった学生達のために冥福を祈って筆を置きます。

会員より

山下前校長と渡辺新校長の歓送迎会について

M2　仁科　和晴

山下前校長が退官されるということで、恒例の送別会が、三島の日本料理店、松韻の離れ、せせらぎ亭にて平成13年9月30日に行われました。前校長とともに渡辺新校長もお見えになり、また若松先生、宮田事務部長をはじめ教職員の方々と木ノ内同窓会長、坂井事務長ほか、近くの同窓会の常任理事等にてひとときを過ごしました。また加藤副会長は、この会の段取りをしてくれましたが、病気のため欠席を余儀なくされました。

山下前校長で、思い出に深いのは同窓会の総会を、東京で開く際、会場を霞ヶ関ビル33階にするよう提案してくれたことです。このようなところに、良い会場があるということは、教えてもらって初めてわかるわけで、適当な価格ですばらしい眺望でした。またこの席には工藤圭章元校長も参加してくださいました。沼津高専の同窓会の総会はどうあるべきかに対して地域を変えて、小規模の総会を開くという方向性がでてきたようにも思えました。

退官された後は、埼玉県に開校した、ものつくり大学の役員になられるそうです。

KSDとのことで、出発点で船出に苦労した面もあったと思いますが、ユニークな学校の成長も注目されます。また日本の工業が皆中国にいってしまうようなことがないよう良い舵とりを頼みたいものです。

渡辺新校長は、1期生と同年代とのことで、自分と同じような年の人が校長になるということに時の流れを感じました。沼津高専は、このような景気の中でも就職は出来ているようで、感謝する次第です。

モンゴルの子供達に学校をプレゼントしてきました

M1　杉山一道

昨年の一月半ばに「モンゴルへ学校を贈る会」を、無謀にも独りで立ち上げ、募金を開始しました。予想もしていませんでしたが百六十名を超える方々から寄金を戴き、八ヶ月後の昨年

AS TIME GOES BY
―池上さんと森野さんのこと―

教養科(英語・卓球部)　勝呂　譲

池上皓治氏は平成十三年七月十三日に亡くなりました。森野衛氏は平成十四年四月十五日に亡くなりました。

一年のうちに同僚を相次いで失いました。現役教師の不幸は過去よその科で二件ほどあったと記憶していますが、今度ばかりは同じ科、しかも最も身近な僚友だっただけに、打ちのめされました。しかしそのショックも時を経るにつれてやわらいでゆく。組織は、世間は、何事もなかったかのように淡々と動いてゆきます。それでなきゃしょうがない。キャンパスに学生の大声が響き、富士ロビンの煙突からは白い煙が東にたなびいている。誰が死のうがわめこうが、そんなものです、人の世は。どんどん忘れなきゃ。俺が死ぬときもそうだろう。「へー、スグロ死んだの。ふ～ん。(ここでしばしの感慨にふける―人もいる。)で、葬式いつ?え、今日?ちょっと都合つかないなー。悪いけど香典預かってってくれる?(と言って三千円包む―人もいる。)」

そして時がたち、世代が代わり、忘れられてゆく。それでよい。それでよい。

でも現職で死ぬなら高専在任中がいいな(他に行く可能性はないけれど)。○公の筈なんだけど沼津高専は細かいのです、心遣いが。池上氏の時の献血募集にしろ、森野氏の時の育英資金勧進にしろ。これはどういう理由によるのでしょうかねえ。事務局、教官、学生、卒業生の一体感は他校(常に人事が流動してゆく公立高校や巨大組織の大学)にはないものだと思うのです。「高専一家」という同族意識がよい方に表れる事例なのですね。

死ぬなら高専現役中に、と思っています。

二人についての回想を、というリクエストですが、もう長い長い弔辞でさんざん言い尽くした。涙も2回目のとき枯れ果てた。(ついでに言えば三年前には英語科非常勤講師の道前聡子さんの葬儀でも読んだ。「ご専門は?」「弔辞です」みたいになっちゃった。)

それでもなお脳みそを振り絞って記憶の断片を集め、つらつら考えてみるに、どうも彼等は私と肌が合うタイプじゃなかったような気がする。英語科の教師でなければ、卓球部の顧問でなければ、あまり深い付き合いにはならなかったかもしれない。池上さんはその余りの気遣いと律儀さのゆえに。森野さんはその余りの頑なさとそっけなさのゆえに。お二人はある面で対照的な個性でしたが、共通点もある。強烈な倫理観(規範意識、善悪の峻別)の持ち主であったところ。カッコよく言えば、人生哲学を持っていた、ということかな。そういう人は私にゃ合わない。軽口の対象にはならなかった。ムッとされちゃ困るもんな。でも彼等のそのまじめさが、私の不真面目(に基づく窮地)を救ってくれた場面が一切ならず。感謝しなけりゃたたられちゃう。気の合う人、気の合わぬ人が補い合って組織が機能してゆくんですよね。仲良しクラブじゃ大人の世界は成り立たない。

お二人の研究室に入って驚いた。見事に整頓されていた。書籍、物品、私物、余った部費の小銭まで。恥ずかしいものもなかった。いつかこういうこともあろうかと思って身辺整理しながら生きてきたわけでもないだろうに。皆そうなんだろうか。そのうち何とかしよう、何とかなる、と思いつつ、なんでもテキトーに積み上げておくのはオイラだけなんだろうか。黒板の前でポコーンと死んだら最高だけど、私の場合は大変だろうな。あとの人が。山岸さん、浦崎さん、よろしくお願いします。

同窓生のみなさん、池上先生、森野先生の思い出話を聞かせてください。線香上げに行くときの土産話にしたいので。急に哀しさがぶり返してきた。ヤバ。

Email: suguro@numazu-ct.ac.jp
tel/fax:055-926-5760

＊なおこの数ヶ月のうちに、教養科(一般科目)名誉教授の朝比奈博先生(世界史)と近藤國臣先生(英語)が逝去されました。

九月に目標金額である二万五千ドル（約300万円）を達成してしまいました。

その後、建設業者との契約、各種許認可の取得等（現地の責任者に全面委託）を経て、今年の五月に「新しい学校」の建設工事に着手し、九月二十日に完成しました。

完成当日、サッカーボール二つ、ソフトバレーボール四つ、壁掛け時計二つ、文房具、玩具をお土産にして落成式に臨み、現地関係者、生徒、父兄と日本からの同行者十一名(2期の仁科和晴氏夫妻も同行)と共に「新しい学校」の完成を喜び合いました。学校の名前を「希望という名の学校」と名づけました。一寸気障で長たらしい名前ですが…。モンゴルテレビが取材に来てインタヴューを受けたりもしました。取材したものはニュースと子供番組で放送されると言っていました。

この学校は正式な学校としては公認されていませんが、貧困家庭の子どもたちがストリートチルドレンにならないよう、また読み書き計算の出来ない大人にならないようにとの願いで現地NGO「子供発展センター(Child Development Center)」が四年間の初等教育を無料で行っているものです。モンゴルにも義務教育制度はあるのですが、教科書代も無料ではないため貧困家庭では子供を学校に通わせることが出来ないからです。

この新しい学校をプレゼントしようと思ったきっかけは、四年程前にモンゴル人留学生と出会い、「子供発展センター」のことを知った事です。三年前から協力を開始して、その年には文房具を重量にして9kgと設備改善費として千ドルを友人に託して持って行って貰いました。このお金は私の友人からのカンパです。もちろん私の分も含めて。

文房具も色々な方から頂戴した物です。

二年前の夏に初めてモンゴルを旅行して、帰国前日に「子供発展センター」を訪問しました。板塀に囲まれたセンターの敷地は五百坪くらいあり、オフィスとして使用しているゲル(遊牧民の移動式住居)、教室と物置の三つの建物がありました。教室は狭いものでしたが、五十人の生徒が学んでいると聞きました。二部制？　初等教育を受けられなかった青年や大人も勉強しているそうです。入学希望者はまだ二百人ほどいるとも言ってました。

庭にはじゃがいもが植えられていました。このセンターではドイツのNGOの協力を得て貧困家庭の経済支援も行っています。また、外国から援助を受けてばかりいては恥ずかしいので母子家庭の母親サークルでフェルト製の品物を作って外国で販売することを計画しているそうです。この時には文房具を重量にして9.5Kgを届け、七百ドルを渡してきました。このお金も私の友人からのカンパです。

帰国後、もう一つ教室を増やすには幾らかかるかと問い合わせたところ、専門家が描いた「夢の学校」のレイアウトや外観図が届きました。建設費用は二万五千ドル（募金開始時のレートで約280万円）。図面を見ると建物の平面は一辺が14.5mの正方形で、建坪は約64坪（210m²）。教室が二つ、職員室、工作室、図書室、炊事場等があり、小さいながらも学校としての体裁が整ったものでした。

文字を読めない、書けないで大人になってしまうのはあまりにも悲しい。
少しでも多くの子供達が読み書き計算を出来るようになって欲しい。
よーし、やってやるかと変な男気を出してしまったというわけです。
高専の同期や後輩にも助けられて「夢の学校」が現実のものとなりました。
ご協力頂きました諸氏に心から御礼申し上げます。
今後同窓会員の皆様にご協力願う時があるかもしれません。
その節は宜しくお願いいたします。
2002.10.1

日本の旅館興す…

味と湯の宿　ニューとみよし
(株)エヌティー倶楽部　代表取締役
富岡　篤美 (E11)

2002年9月7日のE11クラス会。ゲストは平林先生。

日本の工業興す、若き日の5年…でしたが、日本の旅館を興す羽目になっております。母校の恩師に顔向けのできないような道を歩む事になって、「母校は敷居が高いなぁ…」と思っておりましたら、今回、同窓会誌への寄稿の依頼を頂きました。名誉な事です。有り難うございました。

何故こうなったのかは、自分でもよくわからない所があるのですが、一応卒業後は某コンピューターメーカーへ入社して、システムエンジニアの道を歩んでおりました。その当時から歌って踊れるSE(？)で、社内では有名でしたが。コンビニのミニストップさんは１号店から私たちが最初にシステムを手がけました。一ヶ月の残業300時間OKなんていう時代でしたが、まだまだ右肩上がりの時代でした。高専卒の者は皆そうでしょうがこんな私でも、大学卒に負けるもんかと頑張っていたんですよ。ところが、ひょんなことから、26才で故郷の土地を買ったのがきっかけで、28才で退社、帰郷、結婚、転職ということになり、ここ南熱海の伊豆多賀で負債を背負って宿を創業することになりました。

あれからずっと負債を背負いっぱなしになるのですが。この年には情報処理特種の試験と調理師試験を両者とも受けていたようなありさまでした。生まれが隣町の網代でしたので、高専時代は【富岡】より【あじろ】が私の呼び名で、今でもサッカー部の後輩がやってくると「あじろさん、久しぶりです。」なんて言うもので従業員もポカンとしております。

恩師の故柳瀬先生にも「あじろ！あじろ！」と可愛がっていただきました。懐かしいです。

さて、最初は客室８室の小さな宿を妻とパートさんと3、4人で何とかやりくりしておりました。ところが高専の同期生には本当に良く利用してもらって、助かりました。また、この頃、たまたま近所に小松先生がお住まいでしたので、機械工学科の先生方には卒業式の時期に毎年ご利用頂きました。本当に有り難うございました。6年前にこれもひょんな縁で近所のホテル

「ニューとみよし」前にて。前列右端が私。

とレストランを居抜きで購入することになり、改装を施して新館の営業に踏み切りました。これで２店舗の営業になり会社も設立して、何とか形だけは旅館らしくなりました。おかげで同期の同窓会は毎年弊店でやることになってしまいましたが、紆余曲折の人生の中で高専時代の仲間には本当に感謝！感謝！です。どれだけ助けられたかわかりません。

無理無駄の無いのが高専イズムであるなら、私は無理無駄だらけの高専OBです。だから異色なのかも知れません。自分から求めるというより、人生の流れの中で目の前に来てしまったものは善し悪しでなく取り組んでしまう。昔も今も、そんなことの繰り返しです。

選ぶことより、やり抜くことを選択してきました。本当は若い頃から目標を定め、それに向かって邁進するのが理想でしょう。息子にはそう言ってます。しかし、行き当たりバッタリでも、結構できるもんだと最近思っております。まぁ、運が良いだけなんでしょうが…。

今年も先日同窓会がありました。毎年、同窓会は弊店で９月の第１土曜日と決まってます。時間のある方は我々昭和52年卒の同窓会HP(http://shinmaiwa.hp.infoseek.co.jp)をご覧下さい。楽しそうでしょ！何故、こんなに誰にでも親近感が沸くのかわかりませんが、高専生は最高ですね。「こんな卒業生がいて、少しは役に立ったかな？」と思えるのが、私にとっての同窓会です。

日本の工業興す…その間を縫って…ニューとみよしで集いませんか？

味と湯の宿　ニューとみよし　http://www.newtomi.com/

近況報告

C12　高林　和弘

工業化学科12期の高林です。高専を卒業後、家業の染物屋を継ぐ為、1年間岩手県花巻市で住み込みの修行をし、その後、三島に戻り家業の遠州屋染物店の5代目として、旗・のれん・幕・袢天・手拭等、各種印染物の製造・販売を行っています。現在の染物業界は、お客様の注文が複雑になりつつあるので、コンピューター等を使用したり、伝統的な技法を使用したりなかなか大変です。又、全国の印染の研究会にも所属し新しい技術の勉強も続けています。

私個人としては、地域の住民の一員として、地元の消防団や青年会議所、国際交流協会等に所属しボランティア活動を行っています。また、PTAでも役員を務めさせてもらっています。

家で仕事をやっていますと、なかなか他人と触れ合う機会が少ないので、これからも、いろいろな団体に所属しいろいろな人の意見等を聞いていきたいと思います。

同窓生の皆様も、地元のお祭りの袢天や、子供の学校の応援旗等の、ご注文がありましたら、どうかお声を掛けてください。

クラブ活動

サッカー部　全国大会を終えて

5年マネージャー　高井菜巳

試合終了の笛の音と同時に涙があふれた。マネージャーとして選手をサポートしなければならない私が泣いてはいけないと分かっていた、悔しくて涙が止まらなかった。まさかの緒戦敗退だった。私は、3年の時の東海大会豊田戦、4年の時の全国大会鹿児島戦でも悔し涙を流した。しかし、今回は今まで以上に涙が止まらなかった。最後だったから…。

もう来年はないから…。もう一人の正ゴールキーパーの最後の試合を見たかった。でも、こんな辛いことばかり言っていたらみんなを苦しめるだけ。だから、もう辛いことは言わない。私はみんなが好きだから。大好きだから…。今までたくさんの思い出をくれたこの部活がいつまでも大好き。引退してもこの部活の思い出は忘れない。

1年生、マネージャーに憧れて、サッカー部マネージャーとして入部した。入ってみたものの、全然部員とは馴染めないし、憧れのマネージャーのイメージとは違った。1年の時は色々あり、私の部活への出席率は低下していった。そんな調子が続き、2年生に上がった春、私はマネージャーを辞める決心をし、当時5年生のマネージャー高田さんにそのことを告げた。しかし、高田さんは私の言葉を受理しなかった。後に、私は高田さんが受理しなかったことにとても感謝した。2年の夏、全国優勝という素敵な思い出がもらえたから。あの時、私はマネージャーを5年間続ける決心をした。その後、5年生が引退し、急に主務の仕事を私ともう一人の同級生のマネージャーが引き継いだ。初めのうちは、会計等分からないことが多く大変だった。それなのに、もう一人の同級生のマネージャーは、2年の冬、辞めてしまった。辛かった。一時は、マネージャーが一人になり寂しかったが、3年になり当時1年生の高橋さんが入部し、よく頑張ってくれた。その夏の東海大会では、一緒に悔し涙を流した。4年生にもなると、マネージャーの仕事にも慣れ、私は口うるさくなってしまったと思う。全国大会では、宇部戦に感動し、感動の涙を流し、鹿児島戦では悔し涙を流した。この大会で、初めてみんなの試合に対する感動の涙を流した。

そして、5年生。私は就職希望から進学希望に急に変えたため、受験勉強が忙しくなり、部活への出席率は低下してしまった。その分、高橋さんが頑張ってくれた。他の進学する部員は部活に出て頑張っていたのに、マネージャーである私が出席しないということに恥を感じていたが…。そして迎えた東海大会。東海大会数日前からドキドキしていた。受験など忘れていた。

1日目、豊田戦では板倉君のヘディングシュートによる得点に感動した。

鳥羽戦では長田君の3点、板倉君の1点、滝田君の1点、漆畑君の1点、村松君の1点、平山君の４点に絶賛していた。2日目、岐阜戦では、明光君のフリーキックによる得点、小澤君の得点に感動した。鈴鹿戦、滝田君の同点ゴールに涙が浮かび、後半2点目の滝田君の得点に涙が流れた。最後の森上君の得点で、すごく安心した。試合終了の笛の音を聞き、感動の涙があふれた。東海大会終了後からこの全国大会までは、受験日を除いた日は毎日部活に顔を出し、少しでもみんなの役に立とうと、飲み水を作ったり、部室の掃除などをした。私は、今までさぼった分、この大会ではみんなのサポートを精一杯頑張ろうと思っていた。しかし、結局泣いてしまい、みんなを苦しめてしまった…。

まだ書ききれないほど、たくさんの思い出がある。どれも大切な思い出。私は、この部活からもらった思い出を一生忘れない。一生大切にする。みんな、ありがとう。

最後に、激励金を下さった同窓会の皆様、誠に有難うございました。

ハンドボール部の活動

ハンドボール部顧問　望月　孔二

ハンドボール競技が高専大会東海地区大会の種目になったのは第10回大会の1972年からでした。全国高専体育大会で実施されるようになったのは1974年からです。他競技よりも遅れたのは、野球やサッカーに比べたら少しマイナーなためでしょう。しかし、この競技も他にない面白さがあります。個人の体力や技術に加えて，組織としての「(相手守備体系の)崩し」が勝敗を分けますので、頭や、チームワークの良さが問われます。そのスピード感や戦略性など見所の多い面白いスポーツです。

沼津高専ハンドボール部は，全国大会が始まった1974年から高専大会に参加しています。以降この夏まで29回の高専大会東海地区大会の実績は，東海地区大会優勝 1回('77)，準優勝 7回です。全国大会には7回出場し，準優勝 1回('89)，3位 2回('83, '90)を誇ります。(注意：'91までは、東海地区二位まで全国大会に行けました。) 全国の実績は堂々たるものだと思いますが、残念なことにここ10年ほど全国大会に行っていません。当面はまず全国大会に出ることを目標に活動をしています。

今年度のハンドボール部のメンバー構成は、顧問3名(大島、西田、望月孔)、コーチ1名、部員25名です。殆どが3年生以下という将来が楽しみな構成です。練習は例年どおり、平日は秀峰寮南側の専用コートで、木曜夜は体育館で活動しています。毎月第三日曜日の午前は香陵クラブと合同練習する点も同じです。

今年の高専大会は鳥羽市民体育館で行われました。ベンチに入れない部員までいるのは豊田と沼津だけでした。鈴鹿と岐阜は登録メンバーの15人に満たない部員数でした。鳥羽商船高専は部員不足から不参加でした。

大会の結果は、3戦全敗の4位となりました。しかし、昨年度に比べたら改善されています。

昨年度はすべての試合で大敗したのですが、今年は拮抗した試合もできるようになりました。チームの構成員を考えると、来年以降は勝てるチャンスが十分あります。

さらに全国大会への展望についてお話します。東海地区の出場枠の1校分は、最近では豊田高専に独占されています。豊田高専は全国的な強豪でもあり、5年間の全国大会実績は優勝3回，準優勝1回です。幸運なことに、平成16年度全国大会が豊田で開催されることになったため，東海地区で2位以内になれば全国大会への切符を手にすることができます。その年は、現3年生が5年になりますから、今から強化対策をとれば必ず全国大会に行くことができるものと信じています。

新チームは3年生が最上級生となる若いチームです。全国大会を視野に入れたチームを目指し、このチャンスを生かすべく活動していきたいと思います。

剣道部近況

剣道部顧問　遠藤　良樹

同窓会会員の皆様、特に本校剣道部OB、OGの皆様お変わりありませんか。剣道部の近況をお知らせ致します。

1.高体連の試合

ここ10年ほどで剣道部として大きく変わったこととしましては、高体連の試合に参加できるようになったことでしょうか。それまで公式試合といえば唯一高専大会だけでした。

東京高専との定期戦はありましたが、これは交流を兼ねた練習試合です。また春と秋の2回の沼津スポーツ祭剣道競技に参加しておりましたが、これもローカルな閉じた大会です。

それが本校3年生までの学生が高校生と真剣勝負できる場が出来たのです。

高体連の試合としてはインターハイ、剣道選手権、新人戦の3つの大会があります。どの大会も本校剣道部はかなりの確率で東部予選を突破し(団体戦、個人戦)県大会に出場しております。1996年の剣道選手権では東部予選を突破、県大会でも8位になりました。

このように3年生以下の活動は幅を広げ後輩たちは頑張っております。またこれに伴いまして部長の下に副部長を2人置き、副部長の1人は2年生(から3年生の間)から選ぶ体制ができました。この2年生副部長が高体連関連の試合では指導的な役割を担っております。

2.全国高専大会

特筆すべき成績があります。1997年、全国高専大会が鈴鹿であり、これに本校は東海地区2位の成績(鈴鹿が１位)で団体戦出場を果たしました。４ブロックに分かれたリーグ戦で本校は1位になり、決勝トーナメントに進出、準決勝で惜しくも金沢高専に敗れましたが、3位決定戦

で勝ち、堂々全国3位となりました。(優勝鈴鹿、２位金沢)
この年は専攻科にOBの桂元保君がおり彼の指導のもと、小出、中野、清、松山、鈴木、高橋、門前の選手諸君が厳しい稽古を乗り越え立派な結果を残してくれました。また小出君の出身地、福田の道場の先生方が東海地区予選、全国大会の前の練習に来てくださり、学生たちを鍛えてくださいました。その厳しい稽古は「地獄のようだ」と形容されたほどです。

2004年には再び鈴鹿で全国大会が開かれます。残念ながら東海地区での鈴鹿の牙城は堅牢でなかなか優勝して全国大会に出場はかないません。が、再来年は東海地区で2位になれば全国への切符が(多分)手に入ります。1998年の時と状況がまったく同じとは言えませんが、是非とも再び全国大会に出場し、さらに良い成績を上げられるよう努力していきたいと思っております。

3.現状

今年度部員は20名ほどで内、女子のプレイヤーは2人です。女子部員が少ないのが残念で、今年度高専大会団体戦には出場しませんでした。男子部員はここ数年中学での経験者が多く入部し、すでに二段を取得しているものも半数ほどおります。ただ入学後更に上の段位取得を目指す者が少なくなっている状況があり、結局卒業までに3段を取得するものはここ何年か出ておりません。先に述べましたように高校生との公式戦があるためでしょうか、3年生以下の活動が活発になっておりますが、4年生以上の部員が稽古に出てこない傾向が強まっております。
コーチは3年体育非常勤(剣道)の鈴木みち代先生、顧問は３人で、谷先生、佐藤志保先生と私です。なお本校剣道部OB・OGのためのメーリングリスト(以下ML)を運用しております。もしよろしければ登録して下さい。公式戦、合宿、初稽古などの日程をお知らせしております。

登録方法
メールで行ないます。題名に半角で　subscribe Kendoh (Kは大文字)
とだけお書きになり（本文不要）
kendoh@stargate.ippan.numazu-ct.ac.jp (k は小文字)宛にお送りください。

4.今後の予定

来年、2003年の東海地区高専大会剣道競技は本校が会場となります。豊田で開かれた今年度の大会で男子団体戦は2位になりました。会場校となります来年はさらにその次の年全国大会出場をにらんで今年以上の成績を(２位か優勝)目指して努力を積み重ねていきたいと思っております。大会の日程等が決まりましたら上記ML等で皆様にお知らせ致しますので、お時間の許す限り応援何とぞよろしくお願い致します。
また高体連関係の試合の日程もお知らせ致しますので、こちらの応援もよろしくお願いします。やはり先輩方が来て下さり、アドバイスを頂くことが学生たちに取りまして何より励みになると思います。
ではまた試合会場でお会いすることを楽しみにしまして、近況報告を終わらせて頂きます。

水泳部のこの6年 ～ 7人からの再出発 ～

水泳部顧問　小林　美学

岐阜で行われた昨年の高専大会の総合成績は2位。優勝した豊田高専と点差はありましたが、まずまずの成績であったと思います。しかし成績とは別の理由で、私にとっては感慨深い大会でした。話は6年前の9月にさかのぼります。
「小林先生、これは一度リセットしましょう。」と、長年水泳部の顧問をされており、定年退官後はコーチをお願いしていた渥美先生から、プールサイドで声をかけられました。当時水泳部員は20名ほどいたと思いますが、練習を無断で休む学生が何人かいる状態で、ひどい時は7つあるプールのコースが埋まらない時もありました。そのときの学生が特別不真面目という事ではなく、上級生のよい伝統がうまく引き継がれていなかったり、前年に顧問教官が内地留学や主事を任命されたりでなかなか部活を見ることができなかったりと、いくつかの要因が重なってのことでありましたが、とにかく、部としての団結力が低下していたのは事実であり、私も何とかしなければならないと思っていました。そこで他の顧問の先生とも相談の上、急きょミーティングを開き、水泳部は9月の大会を持って一度解散すること、10月に再結成するので希望者は10月1日のミーティングに参加すること、練習には必ず参加することを原則とするという3点を学生に伝え、10月のミーティングを待つことにしました。
「はたして学生は何人集まるだろうか」とか、「何とか形になるのに5年ぐらいはかかるつもりでやろう」など、いろいろ思いを巡らせて迎えた10月のミーティングで集まった人数は、新入部員1名を加えた7名でした。この7名で、水泳部を再建することとし、先ずは遠足を兼ねて身延山にでかけ、今後の発展を祈願することとしました。
翌1998年には、この7名に1年生の新入部員3名が加わり、部員は10名となりました。覚悟の上で残った学生だけに、熱心に練習を行いよくまとまっていたと思います。しかし、やはり人数が少ないことを淋しく思うこともありました。その年の高専大会には、ほとんどの部員が出場枠を目一杯使って健闘しましたが、1点差で最下位に甘んじることになりました。しかし今から思うと、このような厳しい時期を耐えた事で団結力は高まり、現在の活動の骨格作りがこの時期になされていたと思います。
その後部員も少しずつ増え、翌1999年の高専大会では4位、2000年から今年2002年までは3年連続で、2位の成績を収めています。先に感慨深かったと述べた2001年の岐阜における高専大会は、リセットを行った1997年時に1年生だった学生が5年生として水泳部を率いた年にあたります。その時の1年生が5年生になった今、2位の座を維持し、さらに上を目指す状態まで来たと思うと、感慨深いものがあったのです。なお、この間、長年水泳部を指導してくださり、心の支えでもあった渥美先生が亡くなられるという悲しい出来事もありました。渥美先生には心よりご冥福を申し上げます。
現在の部員数は22名で、内3名が女子部員です。以前の高専大会では種目に男女の別はありませんでしたが、今は女子種目が設けられ、女子種目の点数も加算されたうえで総合成績が決ま

ります。従って優勝を目指すためには、男子のみならず女子の選手育成に力を注ぐ必要があり、女子部員の少ない我々にはそのことが大きな課題になっています。また、1995年からは全国高専大会に水泳種目も加わり、水泳部では第1回の大会から毎年、全国大会の出場権を手にしています。

当然ですが全国のレベルは高く、なかなか入賞できませんが、全国大会で入賞することが部員達の大きな目標となっています。また、昨年より戸田にて1泊2日の海合宿も行っています。この合宿は遠泳を行うためのものですが、部員達のよい親睦の場にもなっているようです。

高専の部活動においては、部活動を通した人格形成が一番大きな目標だと思います。人間の成長は物事に真剣に取り組むところから生まれてくるものであり、日々努力し、僅かでもいいから自分のタイムを縮めて行くことで、自分と向かい合ってほしいと思います。努力してもなかなかタイムが縮まない時も確かにありますが、その時を耐え、タイムが縮んだときの喜びを手に入れてほしいと思います。それが自信になっていくことと思い、指導しています。

来年度の東海地区高専大会は豊田で、その翌年は沼津で行われます。お忙しい日々をお過ごしとは思いますが、大会にまたは練習に顔を出して頂けると、部員達も喜ぶ事と思います。今後も水泳部の活動にご理解とご支援をお願いします。

硬式テニス部2002年の夏

硬式テニス部部長　M4　鈴木　良典

今夏テニス部では、男子シングルス(M4鈴木良典)、女子シングルス(M2清真由美)、女子ダブルス(S2高橋紗佳・C2円丁由香利)の４名が7月に行なわれた東海大会で優勝し、8月10日～12日に仙台市泉総合運動場庭球場で行なわれた全国大会に参加してきました。東海大会が終わってから、全国大会で１勝でも多く勝てるようにと練習に励んできました。結果は男子シングルスは初戦で、女子シングルス、ダブルスは2回戦で惜敗してしまいました。今回女子にとっては初めての全国大会、まだ2年生ということもあり、大事なポイントでの経験の差があったのではないかと思われます。僕は2回目の全国大会でありましたが、思い通りのプレーが出来なくてとても悔しい思いをしました。4人ともまだ来年があるので今大会での悔しさをバネに来年度、また全国大会に出場し、今回より良い成績を残そうと誓いました。来年まで1年間今回以上の成績が残せるようにしっかりと練習していきたいと思います。今回全国大会に参加するにあたって、一緒に練習をしてくれた部員のみんなには本当に感謝しています。

部活動全体としては、男子は東海大会団体戦の決勝で負けてから「来年こそは！」と優勝めざして今夏も暑い中練習に励んでいます。今年は３年生主体の若いチームではあったが、優勝した鈴鹿高専に対しても引けを取ることなくいい試合が出来ていたので、今回の悔しさをバネに、また1､2年生も高校生の大会に参加し、上位に残れるよう練習しています。部員それぞれが目標を持ち頑張っています。

再来年、全国大会の主管校は沼津です。地元開催の全国大会で良い成績が残せるように今回の経験を後輩達に伝えていきたいと思います。と同時に技術面でも指導できるように自分自身さらに向上心をもって練習をしていきたいと思います。

吹奏楽部の近況

吹奏楽部顧問　M17　鈴木　茂樹

第43回静岡県吹奏楽コンクール<大学の部>
2002年8月11日　静岡市民文科会館

今年(2002年)2月10日、第30回沼津高専吹奏楽演奏会がJR御殿場線下土狩駅前の「コミュニティながいずみ」において開催されました。この演奏会は、最近の吹奏楽部にとって特別なものでした。といいますのは、それまで本校吹奏楽部は、昭和45年の第1回目から毎年欠かさず演奏会を開催してきましたが、この演奏会は前回の第29回演奏会から4年ぶりの開催となったためです。４年もの間演奏会を開催できなかった理由は、1997年から1998年にかけて急激に部員数が減少してしまったためでした。この時期は、演奏会はおろか入学式や卒業式などの式典における校歌の伴奏もできず、テープに録音したものを流していました。また、高校野球の応援には卒業生などの手を借りて急場をしのいでいました。

1999年、最近にはなく多くの1年生が入部してきました(当時放映されていた吹奏楽を題材にしたテレビドラマの影響かもしれませんが…)。そして、やめてしまっていた部員も何人かが戻ってきてくれました。総勢16人。

「吹奏楽団」というには心許ないですが、１年前には考えられなかった規模です。この年にはさまざまなことがありました。

新しいコーチとして木村零音先生を迎えました。先生は、もともと指揮者ですが、現在の職業は心療内科の医師で、音楽を利用した心療治療にあたっています。

学校を飛び出し、富士山２合目の「富士山麓山の村」で夏の合宿を行いました。以来、山の

村での合宿は恒例となっています。

10月には、卒業生にお手伝いいただきましたが，「沼津市芸術祭」に久しぶりに出演しました．

静岡県吹奏楽連盟主催の「管打楽器アンサンブルコンテスト」にサキソフォン三重奏がエントリーし、銀賞を受賞しました。

地元の吹奏楽団「沼津ブラスフロンティア」の演奏会にゲスト出演させていただきました。

さらに昨年には、1992年以来、実に9年ぶりに吹奏楽コンクールにも出場しました。いずれコンクールに出場することになるだろうことを見越して、「コンクールに出場するためのシミュレーションをしよう」と私が学生に提案したところ、学生の間で話はふくらみ、いつのまにか「コンクールに出場する」ことになっていました。コンクールの結果は満足のいくものではありませんでしたが，学生にはいい経験になりました．顧問としても感慨深いものがありました。

そして今年２月、冒頭で書きましたように4年ぶりの演奏会の開催にこぎつけました．演奏会としては４年ぶりですが、実はその前2回の演奏会は卒業生の手助けがあって実現したものです。ですから、純粋に学生だけで演奏会を開催したのは6年ぶりということになります。さらに、演奏会を自らの手で企画し，開催することを経験している学生は一人もいませんでしたから、第30回とはいっても、事実上はじめての演奏会といえるものでした。吹奏楽のオリジナル曲やアンサンブル曲からポップスまで、バラエティに富んだ演奏会になりました。反省すべき点はいくらでもありますが、上述のような状況だったこと、3年生までしかいなかったことなどを差し引けば、成功したといってもいいのではないかと思っています。学生の勇気ある決断と実行力はすばらしかったと思います。

その後、毎年10人弱の新入部員が入部し、現在の部員数は約30人、ようやく吹奏楽団らしくなってきました。

これまでは、「部の存続」がもっとも重要な命題だったわけですが，これからは実績が問われることになります。現在の状況に安堵することなく。聞いてくださった方に楽しんでいただけるような演奏ができるように練習を積んでいきたいと思います。

さて、今年度は演奏会を1回お休みにして、来年度、第31回の演奏会を開催します。期日は来年(2003年)10月19日(日)、会場は長泉文化センターベルフォーレです。入場無料ですので、みなさまぜひご来場ください。

演奏会開催にあたりましては、毎回、沼津高専同窓会よりご援助をいただいています。末筆ながらこの場を借りてお礼申し上げます。

以上、取り留めのないことを書きましたが、吹奏楽部の近況報告とさせていただきます。

追記：吹奏楽部のOBの方にお知らせです。沼津高専吹奏楽団ＯＢのメーリングリストを開設しています。OBの方への連絡やお知らせは、今後メーリングリストを主にしたいと考えていますので、未加入の方は私宛(suzukish@cce.numazu-ct.ac.jp)にご連絡ください。

平成１３年度高専大会成績表

種目	種類	地区成績	氏名	全国出場	全国成績
陸上競技	総合	5位			
バレーボール	男子	3位			
	女子	4位			
バスケットボール	男子	3位			
	女子	3位			
ソフトテニス	男子団体	5位			
テニス	男子団体	2位			
	女子団体	1位			
	男子個人（ダブルス）	2位	C5渡辺隆弘・S4大石康広		
	男子個人（ダブルス）	3位	M3鈴木良典・C4杉山和也		
	男子個人（シングルス）	2位	S4大石康広		
	女子個人（ダブルス）	1位	D4高根澤和子・C3江間亜矢子	○	3位
	女子個人（ダブルス）	2位	S1高橋紗佳・C1円丁由香利		
	女子個人（シングルス）	2位	D4高根澤和子	○	1回戦
卓球	男子団体	2位			
	女子団体	2位			
	男子個人（ダブルス）	2位	D4鈴木達哉・S1野崎祐一		
	女子個人（ダブルス）	2位	C5秋山絵里・S1安田来美		
	女子個人（ダブルス）	3位	S2後藤紀美子・C1山本優美香		
サッカー		1位		○	3位
ハンドボール		4位			
柔道	団体（全国大会予選）	3位			
	団体（勝抜き戦）	3位			
	個人の部（軽重量級）	1位	S5増田哲平	○	3位
	個人の部（重量級）	2位	S4相田幸祐		
剣道	男子団体（全国大会予選）	4位			
	男子団体（勝抜き戦）	5位			
硬式野球	（トーナメント制）	3位			
水泳	総合	2位			
	400mリレー	3位	M3岡本康宏・M3平野紗呂夢		
			M3宮島直希・S3広瀬智		
	800mリレー	2位	M1村松哲広・M3岡本康宏		
			M4北村創・C4小川健二郎		
	400mメドレーリレー	2位	M1村松哲広・M2鈴木達博		
			M4北村創・C4小川健二郎		
	個人（100m自由形）	1位	C4小川健二郎	○	予選14位
	個人（200m自由形）	2位	C4小川健治郎		
	個人（100mバタフライ）	4位	M4北村創		
	個人（200mバタフライ）	3位	M4北村創		
	個人（200m個人メドレー）	1位	M3岡本康宏	○	予選12位
	個人（100m背泳ぎ）	2位	M1村松哲広	○	予選10位
	個人（200m背泳ぎ）	2位	M1村松哲広		
	個人（100m平泳ぎ）	2位	M2鈴木達博	○	予選16位
	個人（200m平泳ぎ）	2位	M2鈴木達博		

種目	種類	地区成績	氏名	全国出場	全国成績
バトミントン	男子団体	4位			
	女子団体	3位			
	男子個人（シングルス）	2位	C5杉山将紀		
	女子個人（ダブルス）	2位	M5熊谷真帆・D4赤池梓		
	女子個人（シングルス）	3位	M5熊谷真帆		
弓道	団体	1位			
	個人の部	2位	M2大隈宏晃		
	個人の部	3位	D2高橋晃一朗		
空手	総合	4位			
	団体（型）	3位			
	個人（組手）	2位	M4宮澤裕		
	個人（型）	2位	C3井上弘臣		
ラグビー・フットボール					

■ 平成13年度その他の記録

■第34回近畿・東海・北陸・信越地区高専弓道大会
女子団体の部　優勝

■第10回体操競技豊田・沼津高専対抗戦
団体　優勝
跳馬　優勝　M3矢田千尋　3位　D4竹村真郷　3位　M1岩田雅史
平行棒　優勝　M3矢田千尋　2位　D4竹村真郷
吊輪　優勝　M3矢田千尋　2位　D4竹村真郷
鉄棒　優勝　M3矢田千尋　2位　D4竹村真郷
鞍馬　優勝　M3矢田千尋　2位　D4竹村真郷
ゆか　優勝　M1岩田雅史　2位　D4竹村真郷

■第8全国高専将棋大会
団体戦　第3位　沼津高専Aチーム　S3鈴木智之・S3三田克敏・C3北川寛

■高校野球静岡県大会予選
2回戦　○沼津高専　5－4　三島高校
3回戦　●沼津高専　1－2　南伊豆分校

■その他の高校生大会

卓球部
高校総体男子ダブルスの部県大会出場　E3米山朋彦・E2船山直毅 組
全日本卓球選手権大会県大会出場　D1飯田勝巳

剣道部
高校総体団体県大会出場

囲碁将棋部
全国高校将棋選手権大会県大会出場
団体戦の部　沼津高専Aチーム　C3北川寛・S3三田克敏・E2榎田瞬
個人戦の部　C3北川寛

吹奏楽部
第42回静岡県吹奏楽部コンクール銅賞受賞

硬式テニス部
新人テニス競技大会県大会出場　女子ダブルス　M2野田綾子・M1清真由美

平成14年度高専大会成績表

種目	種類	地区成績	氏名	全国出場	全国成績
陸上競技	総合	4位			
	100m	2位	C5杉山広樹	○	予選16位
	走幅跳	1位	E2森口達也	○	決勝6位
	走高跳	1位	E2森口達也	○	棄権
バレーボール	男子	4位			
	女子	5位			
バスケットボール	男子	5位			
	女子	3位			
ソフトテニス	男子団体	5位			
テニス	男子団体	2位			
	女子団体	1位			
	男子個人（ダブルス）	2位			
	男子個人（ダブルス）	3位			
	男子個人（シングルス）	1位	M4鈴木良典	○	1回戦
	女子個人（ダブルス）	1位	S2高橋紗佳・C2円丁由香利	○	2回戦
	女子個人（シングルス）	1位	M2清真由美	○	2回戦
卓球	男子団体	5位			
	女子団体	1位			
	女子個人（ダブルス）	3位	S2安田来美・E1吉村みのり		
	女子個人（シングルス）	1位	E1吉村みのり	○	2回戦
サッカー		1位		○	1回戦
ハンドボール		4位			
柔道	団体（全国大会予選）	4位			
	団体（勝抜き戦）	3位			
	個人の部（軽重量級）	3位	E3村上孝之		
	女子52kg級	1位	C1内藤みゆき	○	2回戦
剣道	男子団体（全国大会予選）	2位			
	男子団体（勝抜き戦）	5位			
硬式野球	（トーナメント制）	5位			
水泳	総合	2位			
	400mリレー	1位	C5小川健二郎・M4岡本康宏 M4宮島直希・C4前田洋	○	決勝9位
	800mリレー	2位	M4岡本康宏・C1柴田潤一郎 C4前田洋・M2村松哲広		
	400mメドレーリレー	2位	M2村松哲広・M3鈴木達博 C5北村創・C5小川健二郎		
	個人（100m自由形）	2位	C4前田洋		
	個人（200m自由形）	3位	M4岡本康宏		
	個人（400m自由形）	1位	C5小川健二郎	○	予選11位
	個人（800m自由形）	2位	C1柴田潤一郎	○	予選17位
	個人（100mバタフライ）	4位	C5北村創		
	個人（200mバタフライ）	3位	C5北村創		
	個人（100m背泳ぎ）	2位	M2村松哲広		
	個人（200m背泳ぎ）	2位	M2村松哲広	○	予選11位
	個人（100m平泳ぎ）	2位	M3鈴木達博		

種目	種類	地区成績	氏名	全国出場	全国成績
水泳	個人（200m平泳ぎ）	2位	M3鈴木達博	○	決勝9位
	個人（200m個人メドレー）	3位	M4岡本康宏		
バトミントン	男子団体	5位			
	女子団体	4位			
	女子個人（ダブルス）	2位	D5赤池梓・C3望月綾		
弓道	総合	3位			
	団体	1位			
	個人の部	2位	C4磯部大介		
空手	団体（組手）	2位			
	団体（型）	3位			
	個人（組手）	2位	M5宮澤裕		
	個人（型）	2位	C4井上弘臣		
ラグビー・フットボール					

■ 平成14年度その他の記録

■第35回近畿・東海・北陸・信越地区高専弓道大会
団体の部　　準優勝
女子団体の部　　準優勝

■第11回体操競技豊田・沼津高専対抗戦
団体　優勝
ゆか　優勝　M2岩田雅史　　2位　M1 藤田慧祐
跳馬　優勝　M4矢田千尋　　2位　M1 藤田慧祐　　3位　M2岩田雅史

■第9全国高専将棋大会
団体戦　ベスト16

■高校野球静岡県大会予選
1回戦　●沼津高専　2－22　興誠（5回コールド）

■平成14年度沼津市高校テニス選手権大会
女子シングル　2位　S2高橋紗佳　　3位　C2円丁由香利　　3位　M2清真由美
女子ダブルス　2位　S2高橋紗佳・C2円丁由香利

弔辞

故　朝比奈　博　先生

国立沼津工業高等専門学校名誉教授、朝比奈博先生のご霊前に、沼津高専を代表いたしまして謹んで哀悼のご挨拶を申し上げます。

先生の突然のご逝去の報に接し、ただただ人生の無常を思うばかりでございます。

朝比奈先生は、大正四年七月二十一日、静岡県にお生まれになり、昭和十五年三月京都帝国大学文学部をご卒業後、滋賀県立今津中学校教諭を経て、海軍省航空隊教官として勤務され、大平洋戦争の勃発後は召集により戦務に従事されました。終戦後は、日本大学教授、静岡県教育委員会指導主事等を歴任されたのち、昭和三十七年四月、沼津工業高等専門学校一般科目助教授に就任されました。その後、昭和四十三年四月教授に昇任され、その後十九年の永きにわたり、本校において社会科教育および研究に多大な業績を残され、昭和五十六年四月に定年退官されました。

先生のご功績は、枚挙にいとまがありませんが、昭和三十七年高等専門学校制度発足と同時に本校に着任された先生は、黎明期の本校において、初代一般科目主任として教育課程の確立に尽力されたのを始め、歴史教科書の作成、高等専門学校入学試験問題の作成等に心血を注がれました。

先生は持ち前の手腕と力量をもって、学生の教育および生活指導に当たられ、さらに吹奏楽部顧問として学生の人間形成にも尽くされ、人柄の良い優秀な技術者を養成して社会に送り出すという、本校教育の、文字通り礎を築かれました。昭和四十七年から一年間、高等専門学校用の歴史教科書の編集委員として原稿を執筆され、中教出版より「歴史学概説上下巻」を刊行されましたが、この教科書は高等専門学校用の教科書のみならず全国の短大、大学の教養課程でも広く活用されました。教育者としての職務を誠実に果たされのみならず、先生は常に研究を怠ることなく、ご専門の日本史、特に郷土史の研究においては「静岡県社会文化史」「近世の儒教思想」をはじめ数々の著書を残されました。

定年退官されたのちは国立東静病院付属看護学校、静岡学園等にて非常勤講師を勤められ、我が国の学術および教育の発展に多大な貢献をされて、昭和六十三年には勲三等瑞宝章を授与されました。

先生は終始、厳しいなかにも温厚なお人柄で、あたたかく学生たちに接してこられました。そして、真摯に学問を追及された先生の思い出は尽きることがございません。

突然、幽明境を異にされた先生のご遺族様を想うとき、その悲しみはいかばかりかとお慰めの言葉もございません。私ども一同ただただ追悼の念を禁じ得ないのであります。

本校の基礎固めに献身的なまでにご尽力下された先生のご遺志を受けて、私どもは今後一層沼津高専の発展に努力いたす覚悟でございます。

先生、どうぞ安らかにお眠りください。

ここに先生の在りし日の面影とご功績をしのび、心より哀悼の誠を手向け弔辞とさせていただきます。

平成十四年四月二十五日
沼津工業高等専門学校長　渡邊　隆

謹んで恩師朝比奈博先生の御霊前にて最後のお別れを述べさせていただきます。
二十三日東京へ出張の折り塩川さんより先生の訃報を聞き余りの突然の事で驚いてしまいました。
夜お会いしてどうしたのですか？と話してももう何も言ってはくれませんでした。元気で市内を自転車で乗って歩いていた元気の姿が・・・、時々はそそっかしくてころんだりしたり、あの先生がころんで・・・亡くなってしまった。残念です。私は市内上井出の上井出中学校を卒業し、工業方面を進学希望でしたので、新設校の国立沼津高専へ昭和三十七年四月一期生として入学いたしました。
金岡中学の旧校舎での入学式、教官との対面、あのういういしい中学出の一青年としての出会いからのスタートでした。
高専時代は日本史、世界史を学びましたが、私は大の苦手でしたので、いつも成績は可か良でしたでしょう。いつも悪い、しかし自分で会社を起こし、世界を相手に仕事をして行くと歴史を調べておかないとダメと分かり、日本史・世界史を学ぶ様になりました。人間の行動の結果です。
あの頃は、名物教授が多かったです。国語の市川先生、実習の握美先生、大橋定先生、体育の三井先生、そして、井形校長などを思い出します。
朝比奈先生は一種独得の持ち味があって、自分が調査して来て、授業中にこうだと言って、学生がいや先生、それはちがいますよと、言っても、納得をしませんでした。
卒業は、良く話題になり、楽しい思いでになりました。
昨夜、お通夜の折に、兄弟の方より兄は学者で頑固で、自分のペースで全て過ごしていましたとのお話をお聞きし、なるほどと納得しました。
私は卒業後は一時地元をはなれていましたが、二十九年前に富士宮へもどり、独立しました。卒業時は会う暇もありませんでしたが、二十五年ほど前の白糸駅伝大会にて必ずお会いして、先生と、握美先生と私の三人で力走した、後輩をねぎらい皆で食べた、トン汁は忘れないです。同期の握美先生も昨年、病に倒れ、先立たれてしまいました。さみしいです。
市内に住んでいますので年一回か二回お会いしていましたがお元気の様子でしたので残念です。
いつも青森からリンゴを送っていましたら、電話で長谷川君、いつも気にかけてありがとうと言ってくれるやさしさを持っていてくれました。残念です。
今年も年賀状を出したですが、返事がこなかったです。奥様より、主人が元気がなくなって来たので失礼しましたとの事です。何か弱くなって来ているのだなと思いまいしたが、訪ねる事も無く、気にはしていたのですが、街中での訪問が減少しているとこの様になってしまいました。申し訳ありません。
地元で先生に激励していただき、今まで感謝に耐えません。
先生、天国で井形校長、市川先生、渥美先生などと創設時代の苦労話や、教え子達の活躍の状況や、教え方が今の日本の教育の仕事がおかしいぞなど、ゆっくりとお話をし会って下さい。
そして、天国のかなたより、最愛の奥様の事を忘れずに又、私達教え子に、日本の将来をしっかり築いて、工業を通じ、世界に君臨出来る様にお導きと、励ましをして下さい。
先生、長い間の御交情をありがとうございました。
さようなら。

平成十四年四月二十五日
沼津高専　一期生　機械工業科
(株)HKS　代表取締役社長　長谷川　浩之

謹んで故朝比奈博先生の御霊前に惜別のことばを申し述べます。
先生のいつも毅然とした学者として、教育者としての強い信念と、溢れる情熱を感じていた者として、先生の死は、思いがけないものであり、あまりにも突然でした。
はからずも先生の教え子として、人生でめったに手に入れることのできない、最も純粋な人間の絆を与えられたものとして、先生の永遠の旅立ちを、心から悲しく思います。
昭和三十九年四月十六日、私は、沼津高専三期生として入学を許され、入学生代表として宣誓を行う機会を得ました。
前の年までは沼津市出身者に当てるものとしていた慣習を、そのとき変更するものでありました。
これは朝比奈先生のご推挙によるものでありました。
しかも、この慣例の変更を私は知らず、私は先生の昨日の通夜の夜まで知らなくて、今、先生の親愛の情溢れた、ご厚情に、先生の御霊前に初めてお礼をいいます。
先生の知己をえてほぼ四十年になります。職業人として、またひとりの人間として、その間、私が先生から得たものは量り知れません。
なかでも「よく生きることは、よく思索することと同時に簡素に生活すること」という先生の教えは、私共の永遠の課題であります。
先生は、ある日、私のうちに来られて、家内の母校の、校歌の楽譜を所望され、先生の御姉様の作曲になる、その曲を自らピアノで弾き、それを私の娘たちに聞かせて下さるのでした。
日常的な名声や欲望を追う、複雑な生活ではない、簡素な生活というものの存在を示して下さいました。
だがそれは、私のような者には、容易ではないのですが、そうしたことを識らずにいつづけた自分を想像すると、先生の示唆に深い感謝の念を覚えずにはいられません。
先生の簡素な思想が、これからも私共とともにあることを確信し、またそれを心から願わずにはいられません。
先生のことについて、先生の御霊前で今言うには、はにかみを思います。
ただ、先生とともに、私共をいつも大事にして下さいましたおく様に、健やかでつつがないことを、先生の御霊前で祈ります。
ゆっくりとお休み下さい。と申し上げるべきなのでしょうが、どうぞ、先生の厳しい目で、私共を監視し続けて下さい。

平成十四年四月二十五日
塩川　修治

故　渥美　武明　先生

一年を通じて最も良い季節といわれ、新緑に包まれた五月の薫風の中、渥美先生は静かに永遠の眠りにつかれました。

思い起こせば新設間もない機械工学科実習工場完成と前後して、渥美先生は初めて沼津高専に見られました。

今となっては数少ない初期の沼津高専を知る先生方の一人でありました。

以来二十余年、主として機械工学実習を担当され、多くの中堅技術者の卵を育ててくださいました。

その指導は厳しさの中にも常に「人を育てる」という信念が貫かれていたと思います。

服装の点検、挨拶から始まり、機械の操作、製品の品質、機械使用後の後片付け、清掃に至る迄まさにモノ作り、いや社会人としての基本を私達は先生から教えていただきました。

その事が実社会へ出てから私達同窓生にとりまして非常に大きな力となっております。

深く感謝申し上げます。

いつも明るく大きな声で話をされる先生は、学生の人気も高く、課外活動においても水泳部の顧問として活躍されました。

プールも小さく、部員数も決して多くはなかったと思いますが、良く指導され、東海地区高専大会では常に優秀な成績を収められました。

先生のご指導を受けた水泳部の方々は結束が堅く、社会に出てからも深いつき合いをされていると聞いております。

この事を見ましても、先生のお人柄が自然とにじみ出ているように思われます。

また、先生は趣味の人でありました。多忙な生活の中、書を良くされたと聞いております。

特に丁度今から十年前、先生の定年退官祝賀会を同窓生有志で開催した時、記念品として硯箱を贈りました。

その時の先生のうれしそうな顔が昨日のことのように思い出されます。

まだまだ思い出は尽きることはありません。先生とのお別れはとても辛いことですが、悲しみばかりに浸ってもおられません。

先生のご指導を活かし、同窓生一同がより人間的な成長を遂げて行くことが、最高のご恩返しになると考え、今後を力一杯生きてゆきます。

先生、長い間のご指導本当にありがとうございました。

又、長い人生ご苦労様でした。

今はただ安らかな眠りに就かれることをお祈り致します。

さようなら

平成十三年五月九日

沼津高専同窓会会長　木ノ内倫弘

Copse15号以後の時の流れ、人の動き

Copse15号以降の２年間において、定年退職された方々は次のとおりです.

【定年退官者】

平成12年3月31日	垂石　公司 先生	教授(教養科)
〃	勝澤　英夫 先生	教授(物質工学科)
平成13年3月31日	楠井　直樹 先生	教授(教養科)
〃	赤羽　徹 先生	教授(物質工学科)
〃	山本　吉明 先生	庶務課図書係長
平成14年3日31日	影山　學 先生	教授(制御情報工学科)
〃	勝又　瑛逸 先生	教授(教養科)
〃	平塚　捷七郎 先生	講師(教養科)
〃	宮田　靖之 さん	事務部長
〃	堀田　昭久 さん	学生課寮務係長

次に現職で亡くなった方が2人、ご冥福をお祈りします.

【死亡】

平成13年7月13日　池上　皓治　教授　56歳　(教養科) 物理担当

平成14年4月15日　森野　衛　教授　52歳　(教養科) 英語担当

引退後亡くなった方（前号で報告できなかった方も含む）

お名前	命日	享年	退職時の学科、役職
佐々木　俊夫先生	H9．4．3	73歳	電気、教授
刈田　良平先生	H11．11．23	69歳	機械、助教授
宇井　倬二先生	H13．1．1	65歳	物質、教授
渥美　武明先生	H13．5．7	75歳	機械、助教授
朝比奈　博先生	H14．4．22	86歳	一般科目、教授
近藤　国臣先生	H14．5．29	97歳	一般科目、教授

朝比奈先生と近藤先生は教養科がまだ一般科目と名乗っていた頃の退職なので、一般科目としました。佐々木先生は電気工学科の時代でした。

(現在、電気工学科は電気電子工学科に改称されています。)

同窓会理事として活動された　C06　渡辺雅樹君が亡くなりました．ご冥福を祈ります.

担当/筒井（M6）

制御情報工学科/芹澤さん資料ありがとうございました.

Copse

編集後記

Copse第16号がようやく発行の運びとなり、ホッとしている所です。
同窓生の皆さんは深刻な不況にもめげずに各地で活躍していらっしゃることと思います。母校も現在の1年生が41期生という歴史を積み上げてきました。ぜひ一度時間を作って立ち寄って見て下さい。同窓会へのご協力も相変わらずお願いいたします。

E9 諏訪部　豊

Copse 第16号
平成14年12月31日発行
●発行責任者/木/内　倫弘
●発行所/沼津工業高等専門学校同窓会
〒410-8501 沼津市大岡3600TEL055-921-2700
●印刷所/ジャパン コミュニケィション
〒410-0043 沼津市柳町3-15TEL055-923-0123